

若シ其書類不用ニ属シタルハ左ノ照會書ヲ以テ還付シ其受取書ヲ取置ク

照會書ノ式

照會書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付事實察見ノ為メ必要ナルヲ以テ御照會ノ末何々御差廻有之候処右ハ取調ノ上已ニ不用ニ属シ候ニ付キ及還付候條御落手ノ上ハ受領証御廻シ有之度候也

明治何年 月 日

何裁別所

豫審判事

氏名 印

宛名

第五十二條 豫審

判事ハ前數條ノ場合ニ於テ檢證及ヒ物件差押ノ事件急遽ヲ要スルハ直ニ巡查ヲ同行シ又ハ所在ノ巡查ヲ使スルコトアリ

○清酒釀造石高免許願

一清酒 何石

此玄米米何石

此白米何石

一瓶ニ付白米何石宛

麴 米 何石

新撰書式文様

七十六

(十四年司法省  
丙第十五号達)

第六章

證人訊問

第五十三條

豫審

判事ハ檢事民事原

告人又ハ被告人ヨ

リ證人トシテ指名

シタル者ヲ呼出ス

原告證人被告證人

ノ員數多ナルト

外ニ

水

何石

右之通、

(味淋白酒其餘ノ酒類モ此体裁ニ  
準ズベシ)

又醸造高元米ノ義是迄白米ノ石

高ヲ以テ申出候処自今元玄米石

高ヲ書加フベシ)

一醸造家ニ於テハ酒造米仕込着手

ハ指名ノ順序ニ從

ヒ又ハ最モ事實ヲ

知ル可シト思料シ

タル者輕罪事件ニ

付テハ各五名重罪

事件ニ依テハ各十

名ヲ限リ先ツ之ヲ

呼出ス沮シ事表

見ノ為メ必用ナリ

トスル片ハ此限ニ

ヨリ醸造畢ルマテ其順序ヲ經取

醪添掛等ノ割合ヲ明ニシ搾リ石高

ニ至ル迄精細定勘帳ヲ整頓シ且釀

造ノ後ハ現實小賣掛賣判取帳ノ製

酒ニ係ル諸帳簿類鄭重調理致シ置

ヘキ事

一酒造廢業ノ者ハ桶類檢印還納ノ

上殘酒有無共届出其酒ヲ給與スル



送書

一葉ヲ書紙局へ還納スベシ

一送達スルキ書名 何冊  
一同 何通  
右使丁ヲ以テ何府縣衙門又ハ何  
國何郡何村何番地何某ノ送達ス  
ル者也

送達スル 書名	何冊	何通	送達スル 月日時	送達スル 場所	送達スル 親屬屋舎シ ハ片長ハ書類 ヲ渡シタル片 ハ其事由	送取人ノ署名 捺印若シ能ハ サル片ハ其事 由
右致送達候也						

書記氏名印

使丁氏名印

明治年月  
何裁判所  
何裁判所

呼出狀送達ノ事ヲ囑託スル書式

囑託書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付証人トシテ呼出ス可ク必本  
人ハ其管内居住ノ者ニ付別紙呼出狀送達方御取計有之度此段  
及囑託候也

明治年月 日

何裁判所

豫審判事

氏名印

何輕罪裁判所

書記氏名殿

新撰書式文格

第五十五條 証人

裁判所々在ノ地ニ  
住セザル片又ハ管  
轄地外ニ在ル片ハ  
其住所ノ治安判事  
若クハ豫審判事ニ  
訊問ノ事ヲ囑託ス  
ルコトアリ  
其囑託ヲ受ケタル  
豫審判事ハ其名ヲ

○清酒濁酒釀造開業願  
一此度清酒釀造仕度候間何率御免  
許被成下度御規則屹度相守可申候  
條此段奉願候也

年月日 住所身分 氏名 印

何郡長宛  
絞油開業願

以テ呼出状ヲ發ス  
之レヲ送達スルハ  
書記ヨリス

治罪法第百  
七十三條  
呼出状ヲ發スル手

続ハ第三十九條及  
ヒ第五十三條ニ同  
シ

第五十六條 証人

疾病公務其他正當

新撰書式文格

今般器械何斗絞相用絞油仕度候間  
何率御鑑札御下ケ渡被下度兼テ被  
仰出御規則屹度相守可申候條此段  
奉願候也

年月日 住所身分 氏名 印

何郡長宛

○同器械讓渡願

新撰書式文林

ノ事故ニ因リ呼出  
ニ応スル丁能ハサ  
ルカ若クハ皇族又  
ハ勅任官ナルルハ  
豫密判事書記ト共  
ニ其所在ニ就テ陳  
述ヲ聴キ通常ノ規  
則ニ從テ調書ヲ作  
ル

治罪法第百七十  
四条同第百八十

一去ル何年何月何日第何号絞油器  
械何斗絞御鑑札願受候以來渡世罷  
在候処此度休業仕度候ニ付何某江  
讓渡申度候條旧御鑑札返上仕候間  
何卒右何某江改而御鑑札御下渡被  
成下度此段連印ヲ以奉願候也

年月日 任所身分 讓渡主 氏名 印

第五十七條 証人

ト為ル可キモノ陸  
海軍ノ軍人軍屬ナ  
ルハ通常ノ呼出  
状ヲ以テ其所屬長  
官ヲ經由シ呼出状  
ヲ送達スル手續ハ  
前ニ同シ

其長官ハ即時出

新撰書式文林

讓受人 氏名 印

何郡區長宛

○新聞紙発行御願

新聞題号何紙何枚摺縦何寸  
冊子ナレバ大中小  
一 毎日隔日 毎週 毎月何号刷行

何府縣族籍

一 持主或ハ社主或ハ社長 何某

送セシム可キ一ヲ

認シ或ハ職務上

已ムヲ得ザル差支

アル片ハ其事由テ

出廷ノ延期ヲ豫審

判事ニ請求スル一

第五十八條 豫審

判事ハ前二條ニ定

全

一編輯長或ハ假編輯人

何某

全

一印刷人

何某

一社号ア社号ヲ記ス

何郡何村何番地

右ハ何々ノ事ヲ記載論述セルモノ

ニシテ一切條例ニ背キ候儀無之候

間今般發行致度此段奉願候也

右持主或ハ社長

年月日 氏名 印

内務卿宛

前書之通願出候ニ付進達候也

何府知事 何縣令某 印

○他國出稼願

住所身分

新撰書式及格

<p>手續キニ從テ其費用及ヒ罰金ハ檢事ノ命令書ニ依リ書記ニ放テ之ヲ徵收ス</p> <p>罰金言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サズ</p> <p>罰金ハ二円已上十円以下トス</p>	<p>商業 氏名</p> <p>右ハ此度營業ノ為何府縣管下何國區何州へ出稼本年何月ヨリ來ル何年マデ凡何々年間罷越度尤當時出入關係合ホ一切無之候間別紙出稼証差出候間御証印被成下度此段奉願候也</p> <p>年月日</p> <p>右 氏名 印</p>
--	---

(治罪法第百七十六條同第四百六十二條)

罰金言渡書ノ式

何國長宛

但シ出稼証ハ諸証書式ノ部ニ出ス

住所身分職業氏名ハ証人トシテ明治何年何月何日當裁判所へ出頭ス可キ旨ノ呼出テ受テナカラ正當ノ事故ナクシテ其呼出ニ允セザルヲ以テ檢事ノ意見ヲ聽キ治罪法第百七十六條ニ証人呼出ニ應セザルハ檢事ノ意見ヲ聽キ二円以上十円以下ノ罰金ヲ言渡ス可シト有ルニ依リ罰金何円申付ル者也



明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事

氏名印

書記

氏名印

第五十九條

豫審

判事ハ証入初度又ハ再度ノ呼出状ヲ受ケサルヲ又ハ豫知シガタキ正當ノ事故アリテ出廷ス

○郵便印紙賣捌額

一金子受取貸借ヲ始メ諸証書ノ義ハ後日証據ニ可致品ニ付先狀書面相用印紙貼用取引可致旨厚御趣意ノ趣明治七年九月御改正印紙取扱

ル能ハザリシトテ証明シタル片ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金ノ言渡ヲ取消スコトアリ此ノ場合ニ於テハ左ノ言渡書ヲ作リテ其取消ノ言渡ヲ為ス  
(治罪法第百七十七條)

御布告ノ赴奉戴仕候ニ付テハ私義右印紙賣捌仕度奉存候尤御布告面御規則之通堅ク相守可申候何卒御採用被成下度候様奉願候也

住所身分

年月日

賣捌人 氏名印

証人 氏名印

戸長 氏名印

地方長官宛

罰金言渡ヲ取消スノ言渡書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ証入トシテ明治何年何月何日出頭ス可キ旨  
ノ呼出ニ應ゼザルヲ以テ罰金何円申付ケタル処右ハ何々ノ事故  
ニ因リ出廷スルヲ能ハサル儀其証明ニ依リ判然シタルニ付キ檢  
事ノ意見ヲ聽キ治罪法第百七十七條ニ依リ右罰金ノ言渡ヲ取消  
ス者也

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事 氏名 氏名  
書記 氏名 氏名  
印 印

第六十條 証人呼

出ニ應シ出廷シタル片ハ其呼出状ヲ  
書記ニ差出シ書記  
ハ之ヲ受取り豫審奉載仕候ニ付テハ私義右御罰紙賣  
判事ニ報告ス若シ  
呼出状ヲ遺失シタル片ハ其人違ヒナ  
キヲ證明セシム  
候様奉願候也

訴訟用罰紙賣捌願

住所身分

治罪法第百七十八條

新舊書三ノ本

第六十一條 豫審

判事ハ書記ニ命ジ

其出廷シタル証人

ヲ一人宛訟廷ニ呼

込マシメ而テ氏名

年齒職業住所及ヒ

左ニ記載シタル者

ナルヤ否ヲ問フ

治罪法第百七十九條

一民事原告人

年月日

賣捌人 氏名 印

証人 氏名 印

戸長 氏名 印

地方長官宛

小道具商業御鑑札御願

一 小道具商

右營業仕度候ニ付御規則通相守可

申候間御鑑札御下ケ渡シ被成下度

此段奉願候也

住所番地

年月日

氏名 印

何郡長宛

○家根看板御願

一 私儀何商ノ者ニ候処右商業為目

標私宅大家根小家根ノ間へ別紙繪

圖面ノ通看板建何尺ノ物相掲申度

第六十二條 証人

治罪法第百八十一條

四民事原告人及ヒ

被告人ノ雇人

被告人ノ後見人又

ハ是等ノ者ノ後見

ヲ受クルモノ

三民事原告人及ヒ

被告人ノ親屬

二民事原告人及ヒ

ハ他ノ證人及被

告人ト各別ニ之ヲ

訊問シ且事實察見

ノ為ニ必要ナリト

スル片ハ證人ト他

ノ證人ト他ノ證人

又ハ被告人ト對稱

セシム

治罪法第百八十四條

第六十三條 其證

此段奉願上候也

住所番地

年月日

氏名印

何郡長宛

別紙圖面ハ畧之

フラフ新建御願

一私儀何商ノ者ニ候処今般遠邇来

客為目標私宅店先左傍へ別圖ノ如

入トシテ呼出サレ

タル者治罪法第百

八十一條ニ記載シ

タル者ニ非ル旨ヲ

陳述シ且治罪法百

八十二條ニ記シタ

ル者ニ非スト思料

シタル片ハ第四十

條ノ如ク宣旨ヲ為

サシム書記ハ其宣

キ旗章ノフラフ建設仕度奉存候也

往来妨ゲ不相成様可仕候兼テ御規

則ノ通雨落外へハ出シ不申候間此

段御許容被成下度則圖面相添奉願

上候也

住所身分

年月日

氏名印

戸長 氏名印

所轄警察署宛

警書ヲ訴訟書類ニ添へ置ク

治罪法第百八十条

第六十四條 治罪

法第百八十一條及

と第百八十二條ニ

定メタル者事實考

考ノ為メ其陳述ヲ

聽クコトヲ要スル場

合ニ於テハ書記左

別紙圖面ハ畧之

公園地拜借出シ店御願

一私儀為渡世何々公園地之内本月

何日ヨリ來何月何日迄日數何日間

何品出シ店仕度候間別紙圖面ノ通

何坪拜借仕度尤一ヶ月一坪ニ付何

程ノ割ヲ以テ賦金上納仕度候此段

御許可奉願上候以上

住所身分

年月日

願入 氏名 印

戸長 氏名 印

地方長官宛

ノ調書ヲ作ル其呼

出状ハ前條ノ式ニ

同シ

治罪法第百八十条同第百八十条ニ

参考人調書ノ式

参考人調書

住所身分職業氏名儀何所ニ於テ何々犯罪事件ニ付事實参考ノ為

メ本日住所身分職業氏名ヲ訊問シタル處其陳述左ノ如シ

一 自分儀氏名年齢職業住所何々

下異書ノ式

- 一 自分何所ニ於テ何々、
  - 一 何年何月日氏名ト何所ニ於テ會合シタル時何々、
  - 一 何々ハ何々、
- 右氏名ニ讀聞カセタル処其陳述ノ相違ナキ旨申立ツ依テ本官等共ニ署名捺印スルモノ也
- 又右ノ口書ヲ変更増減セシテヲ求メタル片ハ左ノ式ニ依ル
- 右氏名ニ讀聞カセタル処左ノ件々変更増減セシテヲ請求セリ
- 一 何々ノ事件聞及ヒタル前何々ノ事ヲ何所ニ於テ見受タル一アリ
  - 一 何々ノ旨陳述セシハ何々ノ違ヒナリ

右ノ口書ヲ讀聞カセタル処相違ナキ旨ヲ陳ベタリ依テ本官等氏名トトモニ署名捺印スルモノ也

明治 年 月 日

何裁判所

豫審判事 氏名 印  
 書記 氏名 印  
 参考人 氏名 印

又参考人署名捺印スル一能ハザル片ハ左ノ如ク記載ス

右ノ口書ヲ讀聞カセタル処相違ナキ旨ヲ述ベタリ然ルニ氏名ハ何々ニ付署名捺印スル一能ハザル旨申立ツ依テ本官等ノ之ニ署名

捺印スルモノ也

明治何年 月 日

何裁判所

豫審判事

氏名印

書記

氏名印

第六十五條 証人

宣誓ヲ肯セス又ハ

宣誓シテ陳述ヲ肯

セサルキハ豫審判

○官地拜借出店願

私儀為渡世官地何組何町(暑中百

日間納涼出店仕度候間別紙圖面ノ

車檢單ノ意見ヲ聽

キ刑律第百八十條

ニ從ヒ罰金ヲ言渡

ス

但其實渡ニ對シテ

ハ故障及ヒ控訴ヲ

許サス

罰金言渡書式ハ左

ニ據ル

醫師藥業醫業及

通何坪拜借仕度御許可ノ上ハ御規

則ノ通一坪ニ付金何程ノ割合ヲ以

テ上納仕候間此段奉願候也

住所身分

年月日

氏名印

戸長 氏名印

地方長官宛

(右ハ所轄警察署(差出スベシ)

新撰書式及各

九十

代官人辯護人代書  
 人公證人若クハ神  
 官僧侶其身分職業  
 ニ関スル秘密ノ事  
 件ニ付キ奉託受  
 ケタルモノハ前項  
 ノ例ニ在ラズ  
 (治罪法第百  
 八十三條)

○橋上拜借御願  
 一私儀何商ノ者ニ付今般何々橋上  
 何所何月ヨリ何月迄納涼中醴葛湯  
 出店仕度尤御規則堅ク相守候間此  
 段奉願上候以上

年月日  
 住所身分  
 氏名印

(其他前二同ジ)

證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓ヲ為シテ陳述ヲ肯セサルトキ  
 罰金ヲ言渡ス書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ證人トシテ明治何年何月日呼出テ受出廷シ  
 タル処故ナク宣誓ヲ肯セザル或ハ宣誓ヲ為シテ陳述ヲ肯セサルニ  
 ルニ付檢事氏名ノ意見ヲ聽キ治罪法第八十三條ニ證人宣誓ヲ肯  
 セサルカ又ハ宣誓ヲ陳述ヲ肯セサルハ豫審判事檢事ノ意見ヲ  
 聽キ刑法第百七十九條及第百八十條ニ依リ其罰金四円以上四  
 十円以下トアルヲ以テ罰金何十円ニ處スルモノ也

明治何年月日



何裁判所

豫審判事 氏名 印

書記 氏名 印

鑑定人宣誓書肯セサルカ又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサル片ニ於テ  
言渡ス罰金ノ書式モ亦タ之ニ準ス

第六十六條 豫審

刑事ハ證人ノ陳述ヲ確定ナラシムル為ノ必要ナリトス

○陸軍省所轄地家屋拜借願

一私儀為商業何區何町ニ有之候陸軍省所轄家屋全戸拜借何々製作場

ル片ハ重罪輕罪ノ犯所ニ同行ス可キ

一テ證人ニ命ス其犯所ニ至レハ書記

調書ヲ作り豫審判事及ヒ證人ト共ニ署名捺印ス

(治罪法第百八十五條)

第六十六條 前條

ノ場合ニ於テ證人

ニ相用度尤明治十一年十一月御達之通御規則相守相當ノ宿料上納仕候間此段奉願候也

年月日

住所身分

戸長

氏名 印  
氏名 印

地方長官宛

○川中拜借御願

何區何川筋何柵何番地字濱沿

同行人ヲ背セサル

ハ左ノ罰金言渡

書ヲ作リ之ニ罰金

ヲ首渡ス

(治罪法第百八十五  
条第百七十六  
条)

一長サ

一出

何間

何間

此坪何坪

右川中拜借漂物洗濯場二仕度尤御

規則之通相守可申候間此段奉願候也

年月日

住所身分

氏名 氏名 印 印

何郎長官

同行スルイヲ背セサル片言渡罰金書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ証人トシテ何住所身分職業何基カ罪ヲ犯シ  
タル何所ニ同行スルヲ命スルニ故ナク背セサルヲ以テ檢事氏名  
ノ意見ヲ聽キ治罪法第百八十五條及第百七十六條ノ規則ニ依  
リ證人呼出ニ應セサル片ハ檢事ノ意見ヲ聽キ二円已上十円已下  
ノ罰金ヲ言渡ス可シトアルニ照シ罰金何円ニ處スルモノ也

明治 年 月 日

何裁判所

豫審判事 氏名 印

書記 氏名印

第六十八條 書記

ハ證人ノ陳述ヲ録  
取シ左ノ調書ヲ作  
リ豫審判事ハ書記  
ヲシテ之ヲ讀聞カ  
サシム是等ノ手續  
ハ治罪法第百八十  
八條同第百八十九  
條ノ規則ニ從フ

○社寺境内借地御願

一私儀何區何柵何社境内圖面朱書  
ノ通東西何間南北何間借用家作致  
待合茶店營業仕度尤同社ハ地料等  
ノ儀ハ遠示於候処差支無之候間此  
段御許可被成下度奉願候也

住所身分

九(一) 治罪法第百八十  
八條同第百八十

年月日

地主 氏名印  
戸長 氏名印

何區長宛

證人調書ノ式(治罪法第百七十九條第百八十條第百八十一條  
第百八十四條第百八十七條第百八十八條第  
百八十九條)

證人氏名調書

明治何年何月日豫審判事氏名ハ何所ニ於テ書記氏名ノ立會ニテ被  
告人某力何々犯罪事件ニ付キ證人氏名ヲ訊問為シタル所左ノ如ク  
陳述ス

一 自分氏名ハ何々年キレ何年何月身分ハ何々職業ハ何々住所ハ何々

一 自分ハ民事原告人ニ在ラス

一 自分ハ民事原告及ヒ被告人ノ親屬或ハ是等ノ後見人又ハ是等ノ後見ヲ受クル者ニアラス

一 自分ハ民事原告人及ヒ被告人ノ雇人ニ在ラス

一 證人氏名ハ宣誓ヲ為シタル上ニテ左ノ陳述ヲ為シタリ(或ハ證人何某ハ何々ニ付宣誓ヲ為サスシテ左ノ如ク陳述ヲ為ス

治罪法第百八十三條ノ第二項ニ記シタル者ノ類)  
何所ニ於テ何々

一 何某ハ何々

一 何々

一 何々

一 年月日何々ノ事ヲ何所ニ於テ見受テタルヲ云々

一 何々

一 證憑物件何品何點ヲ証人ニ示ス

一 今示サレタル何品ハ自分カ盜マレシ品ニ相違之レナク且其品ノ裏面ニ何々ノ目印アリ云々

一 何々品ハ更ニ知ラス云々



書記 氏名 印  
證人 氏名 印

若證人署名捺印スルヲ能ハサルハ  
右何某ニ請問カセクル所其陳述ノ意モ相違キ旨申立ツ但シ何  
々ニ付署名捺印スル能ハサル事由署名或ハ捺印スルヲ能ハサル  
旨ヲ述ルニ付本官等ノミ左ニ署名印捺印スルモノ也

明治何年 月 日

何裁判所

豫審判事 氏名 印  
書記 氏名 印

公判ノ証人調書モ此式ニ準ス然レ共本文中書記氏名ノ立會ニテ  
アルヲ(檢事氏名書記氏名ノ立會ニテ)ニ作リ豫審判事ヲ判事ニ作ル  
ナリ

証人  
右署名スルヲ能ハサルハ  
右捺印スルヲ能ハサルハ  
式ナリ

○其二

第六十九條 証人  
聾者啞者又外國  
語ニ通セサルハ  
治罪法第百五十六  
條ニ依リ  
一私儀從來何々商ノ者ニ候処令般  
何々社砂持正遷宮中別圖ノ通掛  
寺砂持或入佛中別圖ノ通掛

新撰書式文略

條同第百五十七條ノ規則ニ從フ

(治罪法第百八十六條)

第七十條 証人出

延ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得但シ其路程及日數等明記シタル書面ヲ書記局ニ差出サシム

廉致シ襟類靴物西洋小間物氷出シ  
店仕度尤同社へハ相當ノ地料差出  
可申約定相濟候ニ付御規則堅相守  
候間御許容被成下度此段奉願候也

(年月日共他前二同シ)

○山林御拂下願

甲号 証

(治罪法第百九十一條第一項)

第七十一條 證人

日稼ヲ以テ生業トスル者ナル片ハ旅費日當ノ外日稼高二等シキ金額及ヒ其事由等前条ノ書面中ニ詳記セシム  
(治罪法第百九十一條第二項)  
第七十二條 豫審

例  
い  
印

一 檜何本 貳間 何寸ヨリ  
何寸マテ

此尺ノ何本  
代金何程  
但尺ノ一本ニ付金何程

新撰書式文略

判事ハ前二條ノ金

合金何程

額ヲ定メ左言渡  
ヲ作リ直ニ之ヲ言  
渡ス

(治罪法第百九  
十條第三項)

右ノ代價ヲ以テ御拂下相成候ハ  
諸事御規則ノ通相心得代金上納可  
仕候依テ此段奉願候也 (次)

言渡ノ書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ何府縣國郡區町村番地身分職業某ノ何々事  
件ニ付證人トシテ呼出サレタル共旅費日當金若干円其他日稼  
ナ

以テ生業トスル趣キヲ以日稼高ニ等シ一償金若干円ヲ要ムル処  
右事實相違無之ト認定ス依テ要求ノ通り金何十円下渡ス者也

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事 氏名 印

書記 氏名 印

右日當旅費及ヒ日稼高ニ等シキ金額ヲ要ムルト云共適當ナリト  
認メタルハ本文中償金若干円ヲ要ムル処右ノ下ヲ何々ノ理由ニ  
テ共要ムル金額適當ナルニ因リ之ヲ節減シ金若干円下渡スモノナ  
リニ作ルナリ



又放貸日當及日稼高ニ等シキ償金ヲ下渡シタル證人ヨリ左ノ受  
證ヲ出サシム

受取證ノ式

御受書

一金若干円

右ハ何某何々ノ一件ニ付身分證人トシテ御呼出ニ相成依テ其族  
賞日當及日稼高ニ等シキ金員前書ノ通り要求仕候処直ニ御下  
渡ニ相成正ニ受取候也

明治 年 月 日

何住所身分職業

氏名印

何裁判所

豫審判事氏名殿

第七十七章

鑑定

(其二)

住所身分

氏名印

第七十三條

豫審

年月日

刑事ノ犯罪ノ性質

乙号

証

方法及結果ヲ分

一金何程

明ナラシムル為メ

内金何程

約定金上納

鑑定人ヲ必要ナリ

右木材御拂下ニ付入札仕候処前書

トスル時ハ学術職  
業ニ因リ鑑定スル  
コトヲ得ヘキ者一名  
又ハ數名ヲシテ鑑  
定セシムルコトアリ  
(治罪法第百  
九十一條)  
呼出状ハ書記ヨリ  
發シ其送達及前  
金言渡又ハ言渡ヲ  
取消ス等ハ証人ニ

金高ヲ以テ落札被仰渡奉承知候右  
納仕候殘金ノ義ハ來ル何日現品引  
換無相違者ハ上納可仕候万一私方  
ヨリ違約仕候節ハ右約定金ハ違約  
ノ償トシテ悉皆上納可仕候依テ如  
件

年月日  
住所身分  
氏名印  
氏名印  
辨皮人  
氏名印

付テノ手續キニ同

シ  
治罪法第百九十  
一條同第百九十  
二條第  
一項

第七十四條 鑑定

人呼出ニ應セザル  
片ハ治罪法第百七  
十六條ノ規則ニ從  
ヒ處分ス但勾引状  
ヲ發スルコトヲ得ス

請人 氏名印

地方長官宛

証

一約定金何程

落札代價何程ノ十分一  
右木材拂下ニ付入札為致候処前書  
金高ヲ以テ落札相成右約定ノ証ト  
シテ内金書面ノ通上納正ニ領收候

治罪法第百七十七條ノ規則ハ本條ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

(治罪法第百九十二條第二項)

第七十五條 鑑定人ヲ命スルニハ治罪法第百九十五條

ニ從ヒ命令書ヲ以テ之ヲ命シ其命令

尤殘金ノ義ハ來ル何日現品引換ニ無相違上納可有之候万一違約ノ節ハ右約定金ハ違約ノ償トシテ悉皆沒收相成候ト可相心得依テ如件

年月日 官名 氏名印

○山林御拂下入札ノ式

書及ビ宣誓書式ハ

證人通事人ニ同シ書記ハ鑑定人ノ宣誓シタルコトヲ鑑定命令書ノ紙尾ニ記載シ之ニ其宣誓書ヲ添ヘ置ク

(治罪法第百九十三條)

第七十六條 治罪法第百八十一條第

証

當縣下何國何郡何村字何御林

一反別 何程

此地代金何程 但一反步ニ付何程

一木數 何本

此地代金何程

松杉檜雜木通り何尺回りヨリ何尺マテ平均何本ニ付何程

右ノ通入札仕候處落札ニ相成候節

新撰書三ノホ

百八十二條ニ記載シタル者ニハ鑑定ヲ命セス但シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ト為ル可キ者ナキトキハ事實ヲ參考ノ為ニ鑑定ヲ命スルコトアリ

治罪法第百九十五條豫審判事ハ成ル可

ハ立木代即金地代金ノ義ハ何々年賦ヲ以テ上納可仕候以上

年月日

住所身分

氏名印

地方長官宛

○営業鑑札御願

一何々

私儀今般右渡世營業仕度尤豫テノ

(開店スベキ商業ノ名ヲ記スベシ右ハ上納ナル商業ノ類ナリ)

ノ鑑定ニ立會フヲ要ス

治罪法第百九十六條

第七十七條豫審判事ハ鑑定人ノ増求ニ因リ又ハ職業ヲ以テ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトアリ

御規則相守可申候間印鑑御下渡被下度此段奉願候也

住所身分

年月日

氏名印 戸長 氏名印

地方長官宛

○増渡世御願

私義從來何々商相當居候処今般何

新撰書三ノホ

百三

新撰書式

治罪法第百九十七條

第七十八條 鑑定

人ハ鑑定書ヲ作リ其手續ヲ結果及ヒ鑑定ヲ為シタル時間ヲ詳記ス若シ結果ヲ得サルハ其推測スル所ヲ記載シ其意見ヲ與ニスルハ各自鑑定書

々商相兼度此段奉願候也

住所身分

氏名印

何郡長宛

○諸酒類請賣營業願

此度何々酒請仕度就テハ御規則堅ク相守可申候間免許鑑札御下渡被下度此段願上候也

ナ作リ又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス

治罪法第百九十八條

第七十九條 鑑定

人ハ鑑定書ニ年月日ヲ記シ署名捺印及ヒ契印ス又鑑定書ニハ後審判書ニテ受取リ年月日ヲ

住所身分

年月日

氏名印

戸長氏名印

地方長官宛

○屠牛豚肉賣御願

今度屠牛豚肉賣御仕度元御檢査濟ノ肉ニ限リ賣捌可申病死ハ勿論死肉等一切販賣仕間敷候間御免許被成

新撰書式

記載之書記ト共ニ下度此段奉願候也

檢印ス

外國人鑑定ヲ為シ

タル時ハ其鑑定書

ニ裁判所ヨリ命ジ

メル通事ノ作リタ

ル証本ヲ添ヘ置ク

治罪法第百九十九條

第八十條 鑑定人

通事入ノ旅費給料

住所身分

氏名印

戸長 氏名印

年月日

地方長官宛

○牛乳賣捌御願

今般牛乳及モ乾酪牛酪水賣捌仕度  
尤賣製品ハ勿論健康ニ害スル等ノ

及ヒ相留ノ費ハ鑑

定人通事ヲシテ其

金額ヲ記シタル書

面ヲ差出サシメ判

事檢印ノ上會計課

ニ送付シ下渡ノ手

続キツ為サシム

治罪法第百二十條

第八章

府敗品ハ一切發賣不仕候間御免許

程奉願候也

住所身分

氏名印

戸長 氏名印

年月日

地方長官宛

○獵銃免許鑑札願

住所身分

氏名

現行犯ノ豫審

第八十一條 豫審

判事ハ檢事ヨリ先  
ニ現行ノ重罪輕罪  
アルコトヲ知リタル  
場合ニ於テ其事件  
急遽ヲ要スルキハ  
檢事ノ請求ヲ待タ  
ズ直ニ豫審ニ取掛  
リ左ノ通知書ヲ以

一 獵銃

但シ和銃何れ玉

壹挺

何年何ヶ月

右獵銃職業之爲相用可申候間當何  
月ヨリ一期限之免許御鑑札御下渡  
被下度尤御規則諸事堅道守可仕候  
也

年月日

戸長 氏名 印

地方長官宛

○魚鳥問屋開業額

一 私義今度魚鳥問屋市場組合規則  
ニ基キ右開業仕度候ニ付免許鑑札  
御下渡被成下度此段奉願候也

住所身分

年月日

地方長官宛

戸長 氏名 印

テ其旨ヲ通知ス

豫審判事ハ犯所ニ  
臨檢シ令状ヲ發シ

其他治罪法章ニ定

メタル規則ニ從ヒ

豫審ノ處分ヲ爲ス

(治罪法章  
二百一十條)

若シ急遽ヲ要セザ

ルハ檢事ニ通知

シ其請求ヲ待テ豫

行

百六  
百十三

審ニ着手ス

豫審判事ヨリ檢事ハ通知書ノ式

通知書

住所身分職業氏名ハ明治何年月日何地ニ於テ何々ノ罪ヲ犯シ其  
犯罪タルヤ現行ニシテ最モ急速ヲ要スルニ付直ニ豫審ニ取掛リ  
候條此段及御通知候也

明治 年月日

何裁判所

豫審判事 氏名印

其裁判所

檢事氏名殿

第八十二條 前條

ノ場合ニ於テハ檢  
事ノ起訴ナシトモ  
モ豫審判事檢証調  
書ヲ作ルヲ以テ公  
訴ヲ受理シタル者  
トス其調書ニハ現  
行ノ重罪又ハ輕罪  
ナルヲ記載ス豫  
審判事ハ速カニ書

○同鑑札

一 松儀從來魚鳥仲買營業鑑札  
所持罷在候処此度  
而破損 仕候ニ付御書換被成下度此  
段奉願候也

年月日

住所身分

氏名印

何市場組合會所頭取

氏名印



類ヲ檢事ニ送致ス

但シ檢事ヨリ其豫

審手續キテ繼續ス

可キ者ニ非サルノ

意見アリト虽モ通

常ノ規則ニ從ヒ之

ヲ終結ス

(治罪法第

二百二條)

本條ノ場合ニ於テ

檢事ハ書類ヲ送致

戸長 氏名印

地方長官宛

○賃屋并古着商開業願

今般賃屋並古着賣買營業仕度尤御

成規之旨趣堅相守可申候間右御鑑

札御下附奉願候也

住所身分

年月日

氏名印

スル片ハ左ノ式ニ  
從フ

戸長 氏名印

地方長官宛

送致書式

送致書

住所身分職業氏名云々事件ニ付明治何年月日及御通知置直ニ豫  
審ニ取掛リタル上檢証相濟候書類左ニ

一何々 何通

一何々 何冊

右及御送致候也

明治 年 月 日

何裁判所

豫審判事 氏名 印

其裁判所

檢事氏名殿

第八十三條

檢事

ニ於テ先キニ現行  
犯罪アルヲ知リ  
豫審判事ニ届スル

○煙草即賣營業願

此度煙草即賣商仕度候間免許鑑札  
御下渡被成下度此段奉願候也

處分ヲ為シ其書類  
ト意見書等ヲ送致  
ス

地方長官宛

住所身分  
氏名 印  
氏名 印

○證券印紙賣捌所願

但罰金ヲ言渡タ為  
ス一ツ得ヌ又証人  
及ヒ鑑定人ノ陳述  
ハ宣誓ヲ用フル  
ナク之ヲ聽ク

此度証券印紙賣捌所被仰付度勿論  
御成規ノ旨趣吃度相守可申候間御

第八十四條

治罪 凡可被下置候様此段奉願候也

(治罪法第百三  
条第百四条)

法第百三條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察モ亦假ニ之ヲ行フコト得但シ令状ヲ發スルコト得ス司法警察官ハ証憑書類ニ意見書ヲ添ヘ被告人ト共ニ速ニ之ヲ檢事ニ送致

○貸座敷、劇場、茶屋、待合、茶屋、揚弓、場、渡世、頼此度、何々、渡世、營業、仕度、因テ、ハ、部、而之、御、規則、堅、相、守、可、申、候、間、免、許、鑑、札、御、下、渡、被、成、下、度、此、段、奉、願、候、也

年月日 住所身分 氏名印 戸長氏名印 地方長官宛

ス (治罪法第百五條)

第八十五條 檢事

被告人ヲ受取リタルルハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ、調査ヲ作リ、勾留状ヲ發スルト否トヲ問ハヌ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判

第二章

戸籍ニ關係スル願届

○縁組御届

一 私、幾、男、誰、へ、何、縣、何、國、何、郡、何、村、何、番、地、身、分、氏、名、誰、幾、女、誰、何、年、何、月、何、日、今、度、示、談、熟、議、之、上、結、婚、仕、候、間、此、段、御、届、申、上、候、也、追、而、送、籍、差、越、可、申、候、間、御、入、籍、被

第百一十條

車ニ送致ス  
若シ起訴ヲ為スコ  
カラサル者ト認メ  
タルハ直ニ被告  
人ヲ放免ス

(治罪法第  
二百六條)

第八十六條 豫審

刑事ハ二十四時内  
ニ被告人ヲ訊問ス  
但此ノ場合ニ於テ

成下度奉願候也

住所身分

氏名印

年月日

戸長役場御中

○送籍御願

住所身分

氏名印

たれ  
何年何ヶ月

ハ檢事ノ發シタル  
勾留状ヲ解キ又ハ  
之ヲ存スルモア

(治罪法第  
二百七條)

勾留状ヲ解クニハ  
左ノ言渡書ヲ以テ  
ス

右ハ何縣何國何郡何町何番地  
誰方へ縁組申合候間送籍之儀奉  
願候也

住所身分

氏名印

年月日

戸長役場御中

勾留状ヲ解クノ言渡書式

言渡書

第百一十條

第百一十條

新撰書式文格

住所身分職業何某ハ云々事件ニ付明治何年何月何日檢事ヨリ拘留シタル処右ハ勾留ス可キモノニ在ラスト思料スルニ依リ該令状ヲ解クモノ也

明治 年 月 日

何裁判所

豫審判所 氏名 印  
書記 氏名 印

第八十七條

豫審判事ハ檢事又ハ司法警察官ノ為レタ

○出產御届

幾男女 誰

ル手統キニ付キ更ニ其取調ヲ為スヲ得但檢事又ハ司法警察官ノ作リタル調書ハ之ヲ訴訟書類ニ添ヘ置ク

(治罪法第 二百八条)

第八十八條

檢事ハ現行犯ニ係ル場

右私レ妻ニレ儀本月何日何時分娩男子或ハ女子出生仕候ニ付戸籍へ御編入被成下度此段御届申上候也

住所身分 氏名 印  
年月日

戸長役場御中

○私生子分娩御届

住所身分氏名幾男或ハ元弟伯叔父

合ニ於テ勾留状ヲ  
 察シタルト否トニ  
 拘ラス被告人ヲ訊  
 問シタル後豫審ヲ  
 求ムルニ及ハスト  
 思料シタル片ハ直  
 ナニ輕罪裁判所ニ  
 呼出スヲ得  
 (拾罪法第  
 二百九条)

氏名  
 住所身分氏名幾女  
 或ハ姉妹誰ト通シ  
 年月日  
 氏名  
 (又其婦女ノ子トスル片ハ)  
 住所身分氏名幾女  
 誰  
 (長次男女ト肩書ニ記シ)  
 (何年何月日出生)ト頭書スベシ  
 右戸籍百へ御編入被成下度此段御

第九章

保釋

第八十九条

豫審  
 刑軍ハ豫審中勾留  
 状又ハ収監状ヲ受  
 ケタル被告人保釈  
 マ請求シタル片ハ  
 檢事ノ意見ヲ聽キ  
 左ノ証書ヲ差出サ  
 シ保釈ヲ許ス

届申上候也

住所身分  
 年月日  
 氏名印

戸長役場御中  
 離縁御届

何府何國何町何番地  
 氏名幾女  
 私妻幾女  
 何年何ヶ月

ヲ得但被告ノ無力ナルハ親屬又ハ代人ヨリ保釈ヲ求ムル亦前項ニ同シ  
右ハ此度熟議ノ上離縁仕候間此段御届申上候依之生家何某方へ送籍御取計被下度候也

(治罪法第百十條)

年月日

住所身分

氏名印

戸長役場御中

保釈證書ノ式

保釈證書

自分儀又ハ住所身分職業氏名儀(本般保釈額上候処即御差許相成リ候上ハ何時ニテモ御呼出ニ應シ出廷可致又ハ可為致)候依テ證書差上候也

(若シ親屬又ハ代人ヨリスル片ハ)

何某親屬(又ハ代人)

住處

願人 氏名 印

明治 年 月 日

某裁判所

豫審判事氏名殿

第九十條 前條ノ

證書ハ書記局ニ送

出入

保釈中被告人ヲ呼

出スルハ出廷ヨリ

二十四時前ニ其報

知ヲ為スモノトス

保釈ヲ許スニハ金

円ヲ以テ被告人ノ

○復籍御願

元住所身分

氏名

何年何月

右 或ハ 去ル何年何月日脱籍仕

何縣下何國何郡何町氏名方ニ世話

ニ相成居候処方今戸籍御改正之由

柄何方ニモ居住難相成深ク前非悔

悟奉恐入候此度或ハ親屬某方へ復

其保釈証金額ヲ定

ムルハ豫審判事之

ヲ為シ書記ヲシテ

左ノ旨渡書ヲ作ラ

シノ之ヲ言渡ス

(拾果法第百十

条同第百十二条)

籍仕度 或ハ為 歸村 或ハ仕候ニ付此

段奉願候也

住所身分

年月日

氏名印

(父母兄弟或親屬)

戸長 氏名印

郡役所御中

保釈言渡書ノ式



何住所身分職業氏名ハ何々事件ニ付審問中勾留又ハ收監申付ケ  
置キタル処本人又ハ親屬某或ハ代人某ノ請願ニ依リ保釈差許候  
條氏名ノ出廷ノ保釈スル為メ金何百円某ヨリ差出ス可キ者也

明治 年 月 日

何裁判事

豫審判事 氏名 印  
書記 氏名 印

第九十一條 保釈

ヲ為スニハ本人又  
ハ他ノ者ヲシテ保

○養子解縁御届

何縣何村何番地

叙金若クハ貯金預  
所又ハ銀行ノ預証  
書ヲ書記局へ差出  
サシム書記之ヲ受  
取リタル片ハ直ニ  
左ノ通知書ヲ以テ  
監督長ニ通知シ共  
金賣持ハ保証金概  
額ケ帳ニ登記シ判  
筆書記之レニ捺印

右者去ル何年何月日ヨリ 養子ニ貫  
受其節御届仕置候処云々ニ付 不相  
ハ家風儀有之今般離別候間此段御  
届仕候也

年月日

住所身分 氏名 印

氏名  
幾男第  
女姉妹 誰  
何年何ヶ月

新撰書式文持

シ會計課ニ付シ受

領印ヲ取り置ク

(治罪法第百三十三條)

監倉へ通知書式

通知書

住所身分職業氏名職本日保釈差許候條此段及通知候也

明治 年 月 日

何裁判所

豫審判事 氏名 印

何府縣

監倉長氏名股

親屬總代 氏名 印

戸長役場御中

第九十二條

裁判

所ノ管轄地内ニ住

シ充分ナル資力ア

ル者ト確認スヘキ

者ヨリ左ノ保釈証

書ヲ差出シタルハ

ハ亦前條ノ手續キ

ニ同シ

(治罪法第百三十三條第二項)

○寄留送籍御願

住所身分氏名 兄弟 姉妹

氏名

何年何月

右之者義何々ニ付住所身分氏名方

へ向フ何ヶ年間寄留致度依之寄留

送籍之儀奉願候也

年月日 右父兄 氏名 印

戸長役場御中

新撰書式文持

百十七

保証書ノ式

保証書

何住所身分職業氏名儀今般保証額上御許可相成候ニ付保証金何百  
円ハ何時ニテモ自分ヨリ完納可仕候依テ此般保証致候也

何住所身分職業

明治何年何月何日

氏名

自署

何裁判所

豫審判事何某殿

第九十三條 豫審

判事ハ被告人呼出  
テ受ケ正當ノ事故  
ナクシテ出廷セサ  
ル片ハ檢事ノ意見  
ヲ聽キ左ノ如ク保  
証金没入並ニ保釈  
取消ノ旨渡書ヲ作  
リ之ヲ言渡シ書記  
ヲシテ没入保證金

○寄留券御願

私儀今般何高或ハ之爲何府何國何  
郡何町氏名所持之何番地ヲ借受本  
區何月ヨリ來ル何年何月マテ寄留  
仕度依之寄留券御渡之儀奉願候也

住所身分

氏名印

年月日

戸長役場御中

引渡帳ニ被告人ノ住所職業氏名ト共没入スル金買ラ明記セシノ判事書記之ニ捺印シ會計課ヘ送付シ受領印ヲ取リ且同時ニ保証金假預帳中該金ニ係ル部分ノ処ニ共旨ヲ記入シ判事書記

○旅行御届

私儀商用ニ付或ハ神社佛閣參拜又ハ拵登名所歴覽其他日數九十日間何縣何國何所マテ罷越度依而此段御届申上候也

年月日 住所身分 氏名 印

戸長役場御中

○寄留人出立届

記及ヒ會計課掛算之ニ捺印ス

治罪法

(第百二十四条同第百十五条同第百十六) 条第一項

住所身分

氏名

何年何月

右之者何年何月日ヨリ私方控家ニ寄留罷在候処本日日出立致候ニ付此段御届申上候也

住所身分

氏名 印

年月日

戸長役場宛

保釈金没入並ニ保釈取消ノ言渡書式

言渡書

住所身分職業氏名儀何々車件ニ付拘留(又ハ叔監)中保釈差許シ置  
ク処明治何年何月日時當何裁判所ニ出廷ス可キノ呼出ノ受テ正  
當ノ事故ナクシテ出廷セサルヲ以テ檢事ノ意見ヲ聞キ治罪法第  
二百十四條同第百十六條ニ依リ其保釈金何拾円(又ハ何十円ノ  
内何円何十錢)没入ノ上保釈ノ言渡ヲ取消スモノ也

明治何年 月 日

何裁判所

豫審判事 氏名 印

若シ他人ノ保証ニ係ル片ハ其旨ヲ檢事ニ通知シ徵収ノ處分ヲ請  
求ス(治罪法第百十  
五條第二項)

第九十四條 豫審

中必要ナリトシテ

保釈ノ言渡ヲ取消  
スニハ檢事ノ意見  
ヲ聽キ左ノ言渡書  
ヲ保釈金ハ書記ヲ

○帰宅御届

私儀去ル何年何月日旅行御届之上  
何縣何國へ罷越候処今般用向相濟  
本月何日帰宅仕候間此段御届申上  
候也

シテ保証金假預ケ  
帳ニ照合シ會計探  
ヨリ之ヲ受取ラシ  
ノ且其帳ニ共旨ヲ  
記シ常ノ如ク之ニ  
捺印シ直ニ該金ヲ  
下付シ受取証書ト  
交換セシム但受取  
証書ハ一件袋ニ添  
ヘ置ク

住所身分  
氏名印

年月日

戸長役場御中

○學寄留御届

住所身分  
氏名  
何年何月

右ハ何學為修行本月何日ヨリ私方  
或ハ私塾へ寄留為致候間御届申上候也

(治罪法第二百  
十六條第二項)

係釈ヲ取消ス言渡ノ書式

言渡書

住所身分職業氏名ハ曾テ請求ニ因リ係釈差許置ク処必要ノ豫有  
之ヲ以テ檢査ノ意見ヲ聽キ右係釈ノ言渡ハ取消スモノ也

明治何年何月日

何裁判所

所異書式各

百廿一

第九十五條 前條

ノ場合ニ於テハ更ニ令状ヲ用ヒス書面ヲ以テ其旨ヲ監倉長ニ通知シ被告人ヲ引渡スノ手續キテ爲ス

豫審判事 氏名 印  
書記 氏名 印

○止宿御届

住所身分職業

氏名 何年何月

右之者便宜ニ依リ本日ヨリ私方ハ止宿為致候ニ付此段御届申上候也

住所身分

第九十六條 治罪

法第二百十七條第

二百十八條ノ場合

ニ於テ保証金ヲ還

付スルニ其限簿ニ

照シ書記ヲシテ該

金ヲ會計課ヨリ取

戻サシム其旨ヲ帳

簿ニ記入シ通簿ノ

如ク之ニ捺印シ其

受取リタル金額ハ

年月日

氏名 印

所轄警察署 御中

○家出入御届

住所身分職業

氏名 何年何月

右之者(兼而健忘之症)昨午(前)何時親知之者へ用事有之旨申罷越何時頃

受取証書トテ換ハ  
 ニ選付ス但受取  
 証書ハ一件數ニ入  
 レ置ク  
 (治罪法第百十八  
 七条第百十八  
 条)  
 第九十七條 豫審  
 判事ハ保釈ノ請求  
 アルト否トテ問ハ  
 ス檢軍ノ意見ヲ聽  
 ニ至リ候而モ帰宅不仕行跡不分候  
 故夫々心當リ之處探索致シ候得共  
 行衛更ニ不相分候親類其他心當リ  
 之所々相尋候ハ  
 雖行未相分リ不申全家  
 出仕候ト存候云々猶精々遂テ  
 穿鑿尋申候得虽先ハ不取敢此段御  
 届申上候也  
 住所身分  
 年月日  
 氏名印

キ被告入テ其親展  
 又ハ故旧ニ責付ス  
 ルコアリ  
 本條ノ場合ニハ被  
 告人ヨリ其親屬故  
 旧ノ住所氏名ヲ聽  
 取リ通帯ノ手続キ  
 テ以テ之ヲ呼出シ  
 被告入ト共ニ送廷  
 ニ呼出シテ責付セ  
 所轄警察署  
 ○逃亡人立帰御届  
 住所身分職業  
 氏名  
 何年何月  
 右之者去ル何年月日家出仕行衛不  
 分明ノ旨其節御届仕置候処本月何  
 日帰宅仕候ニ付篤ト取紀候処何所  
 何某方ハ何用有之罷越候様申聞候

下集書入ノ各



新撰書式

ル旨ヲ口達ス

(治罪法第ニ)

被告入ヲ責付スル

片ハ保管人ヨリ左

ノ受書ヲ出サシメ

其旨ヲ呈為長ニ通

知ス

受書ノ式

御受書

間本人召連シレ又ハ何日ニ至リ何地某  
人方ヨリ通知有之候間シ此段御届申  
早速召連届宅仕候云々

住所身分

氏名印

所轄警察署

年月日

第十章

豫審終結

何住所身分職業氏名候御審問中自分ハ貴府相成候ニ付テハ御呼  
出ニ應ジ何時ニテモ出廷致サセ可申此段御受仕候也

其親屬或ハ故旧

住所身分職業

氏名

印

明治何年月日

何裁判所

豫審判事氏名殿

送籍願一例

住所身分職業

新撰書式各

百廿四

第九十八條 豫審

判事ハ被告事件其  
管轄ニ非ストシ又  
ハ他ニ取調スルニ  
ルナレト思料シ  
タルハ豫審終結  
ノ処分ニ付被告ノ  
意見ヲ求ムル為メ  
一切ノ訴訟書類ヲ  
送致ス

氏名

何年何月

妻 六 礼

何年何月

右之者為何々當地ニ在居罷在候処  
云々事故有之ニ付業休難營業依之  
何縣下何郡何村氏名或ハ何ノ續ニ付  
引取世話可致旨申出候間又ハ私勝  
付何府縣下何処何番(交籍証御渡之  
地ハ移在仕度矣ニ付)

檢事ハ訴訟書類ニ  
意見ヲ付シ三日内

ニ之ヲ還付ス

(治罪法第百二十条)

第九十九條 豫審

ハ豫審者令ナラズ  
ト思料シタル片ハ  
其條件ニ付更ニ取  
調ヲ請求スルコト  
リ若シ豫審判事其

義奉願候也

住所身分

氏名印

戸長役場御中

○死去御届

私父母叔父伯母兄弟誰義病氣之処  
今牛後何時死去致候ニ付別紙医師  
診断書相添此段御届申上候也

片(訴訟書類)

新撰書式

請求ノ旨セサル片

ハ檢事訴訟書類ニ

意見ヲ付シ二十四

時内ニ之レヲ選擇

ス

治罪法第二  
百二十一條

第百條 豫審判事

ハ檢事ノ意見如何

ナルヲ問ハス後ニ

記載シタル言渡ヲ

年月日

住所身分

氏名印

戸長役場御中

附リ士族戸主死去セシ時ハ近親ノ者ヨリ届ケ平民ハ七跡相續人ヨリ届ル

○死去報告

住所身分

何々氏名  
何年何月

病名及ヒ経過ノ年月死ニ至ルノ原因年月日死七

以テ終結ス

治罪法第二  
百二十二條

第百一條 第九十

八條ノ場合ニ於テ

檢事ニ訴訟書類ヲ

送付スル片ハ左ノ

照會ヲ以テ送付ス

治罪法第二  
百二十條第一項

檢事ノ照會ノ書式

右ハ拙者施治ノ患者ニ候処頭書ノ  
通致死去候ニ付此段報告仕候也

住所身分

年月日 醫師 氏名印

地方長官宛

前ノ死去届ト相添戸長役場差入可シ

新撰書式

百廿六

照會書

住所身分職業氏名儀病盜或ハ強盜ノ類(重件取調ニ付御意見本知  
致度候テ一切ノ訴訟書類及送致候也

明治何年 月 日

何裁判所

豫審判事 氏名印

書記 氏名印

何裁判所

檢事氏名殿

第百二條 第九十

○寄留人病死御届

九條ノ場合ニ於テ  
檢事ヨリ其豫審迄  
分ナラヌトシ三日  
内ニ取調ノ請求ヲ  
受ケタルハ通常  
豫審ノ手續キヲ行  
フ若シ其請求ヲ肯  
ゼサルニハ左ノ書  
面ヲ以テ其旨ヲ廻  
答シ其二十四時内

住所身分職業

氏名

何年何ヶ月

右之者何々ノ間柄ヲ以テ私方ニ寄  
留或ハ寄留為致候処何月何日頃ヨ  
リ病氣ノ処候ニ變症差起リ候ニ付  
早速某ノ診察ヲ受ケ藥用介抱仕候  
得共養生不相叶病死仕候間取付付  
仕度則チ別紙容体書相添此段御届

二書類ノ速付受申上候也

住所身分

年月日

氏名印

戸長役場御中

ケタル片ハ檢事ノ  
意見ニ拘ラス豫審  
終結ヲ為ス  
治罪法第二百二  
十一條同第三  
十二條

豫審判事檢事ノ請求ニ答セサル片廻答書ノ式

廻答書

住所身分職業氏名俄何々犯罪事件豫審ニ付御照會ノ趣ニ候処本

件ハ已ニ豫審ヲ遂テ此上取調ニ要ス可キ虞無之候條右及廻答候也

明治何年月日

何裁判所

豫審判事 氏名印

某裁判所

檢事氏名殿

第三百三條

豫審終

結ノ言渡ハ豫審判

事ニ於テ治罪法第

○變免御届

住所身分職業

新撰書式文各

百六

第二百廿八條第百三

二十九條第百三

十條ノ規則ニ照シ

第二百三條以下ニ

記スル區分ニ從ヒ

言渡書ヲ作り書記

ト共ニ署名捺印シ

猶裁判所ノ印章ヲ

捺印ス

氏名

何年何月

右之者兼而狂氣之様子ニ相見候

ニ付心付居候処今何日於何所

溺死仕候間此段御届申上候也

年号月日

住所身分

氏名印

所轄警察署

○變死人検査ノ報告

住所身分職業

一何々

右之死体検査仕候処頭書之通相違

無之候也

年月日

住所身分

氏名印

地方長官宛

(拾罪法第百三)

被告人ノ陳述書又ハ豫審終結ノ言渡書又ハ裁判言渡書ノ

新撰書式文略

百廿九

謄本ノ式

本文何々、

右正本ニ依リ謄寫スル所相違無之モノ也

明治何年 月 日

何裁判所

書記 氏名印

若シ裁判言渡書ナルハ左ニ作ル

右正本ノ抜書ニ相違無之モノ也

明治何年 月 日

何裁判所

第四百條

豫審判

車ハ被告事件共管轄ニ非ラサルヲ

認メタルハ左ノ

言渡書ヲ作リ之ヲ

言渡シ若シ拘留ヲ

要スル者ト認メタ

ルハ前ニ發シタ

ル令状ヲ存シ又ハ

○附籍人送籍御願

一私方附籍何ノ某今般示欲相整何

府何國何郡何町何番地氏名方へ何

月幾日 養子入夫 養女嫁入仕候ニ付某町へ御

送籍被成下度此段願上候也

送籍被成下度此段願上候也

住所身分

年月日

氏名印

新ニ令状ヲ発シ其  
事件ヲ檢事ニ交付  
ス

(治罪法第二  
百三十三條)

被告事件管轄ニ在ラサルヲ認メタルハ言渡書式

言渡書

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ何住所身分職業氏名  
ノ何々事件ニ付キ豫審ヲ遂クル処何々ノ證據ニ依レハ氏名ハ何  
府縣何國何郡區何町村某宅へ明治何年月日ノ夜兇器ヲ携ヘ押入

附籍人 氏名印

戸長役場御中

金錢其他衣類強取シタルモノナルヲ以テ其犯罪ノ地タルヤ當何  
裁判所ノ管轄ニ非ラストス依テ治罪法第四十條同第百二十三  
條ニ依リ管轄ニ在ラサルヲ言渡シ且明治何年何月何日ニ発シ  
タル拘留狀ヲ存シ右事件ヲ檢事ニ交付スル者也

明治何年 月 日

何裁判所

豫審判事 氏名印

書記 氏名印

又ハ其證據充分ニ為ラザルハ免訴ノ言渡書式

言渡書



何種罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ住所身分職業氏名カ  
明治何年何月何日何處ニ於テ何々ヲ為シタル事件ニ付テ豫審ヲ  
遂グルル処云々其他證人氏名ノ申立ニ於テモ何々ニ付テ其證憑充分  
ナラサルヲ以テ治罪法第二百二十四條ニ犯罪ノ証憑充分ナラザ  
ルハ免訴ノ言渡ヲ為ストアルニ依リ免訴スルモノ也

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事 氏名 印  
書記 氏名 印

第二百五條 被告軍

件違警罪ナリト思  
料シタルハ左ノ  
言渡書ヲ以テ違警  
罪裁判所ニ移スノ  
言渡ヲ為シ且被告  
人物留ヲ受ケタル  
片ハ釈放ノ言渡ヲ  
為ス

(治罪法第ニ  
百二十九條)

〇一泊御届

住所身分職業

氏名

右之者都合ニ依リ私方ニ令一泊為

致候間此段御届申上候也

住所身分

氏名 印

年月日

所轄警察署

新撰書式文略

(違警罪ニ付テハ  
十四年十二月  
八十号布告ニ依リ  
會分ノ内各地方  
警察署又ハ分署ニ  
於テ之ヲ裁判ス)

○雇入人御届

住所身分

氏名

何年何月

右之者本月何日ヨリ來ル何年何月  
迄何ケ年間雇入候ニ付此段御届申  
上候也

住所身分

氏名印

年月日

戸長役場御中

違警罪裁判所ニ移スノ言渡書式

言渡書

其輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ住所身分職業氏名ノ  
被告タル何々事件豫審ヲ遂グル処被告入犯罪ノ證據ニ依レハ刑  
法第四百二十五條第一項ニ云々トアルヲ適用スベキ違警罪ナリ  
トス後右事件何處警察裁判所ニ移スモノ也

明治何年何月何日

何裁判所

豫審判事

氏名

印

書記

氏名

印

新撰書式文略

百三十三

被告入ニ送達スハ  
 被告ノ例ニ同シ  
 又被告人拘留ヲ受  
 ケタル片ハ言渡書  
 ノ本文中(何處)ニ  
 裁判所ニ移ストア  
 ル下文ヲ(シ)氏名ノ

○葉免拾揚御届  
 一當村内ニ於テ昨日午前何時頃  
 年齢凡何歳斗ノ小免放葉罷在候ニ  
 付不取敢村役方ニ養育仕置候此段  
 御届奉申上候也

年月日  
 村総代  
 氏名印  
 所轄警察署

勾留ヲ釈放スルモ  
 ノ也(三)作ルナリ  
 第六條 被告事  
 件輕罪ナリト思料  
 シタル片ハ左ノ言  
 渡書ヲ以テ輕罪裁  
 判所ニ移ス言渡  
 ヲ為ス  
 若シ禁錮ノ刑ニ敵  
 ルハキ者ニシテ未

○横死人御届  
 住所身分職業  
 氏名  
 何年何月  
 右之者儀本日午後何時何々体之者  
 同人宅ニ於テ何角強欲申募リ候ニ  
 付村内之者共早速馳付候処最早救  
 害ニ及ビ逃去リ候体見受候大凡人  
 相別紙之通ニ御座候此段不取敢御

新撰書式文各  
 百十四

新撰法律書

届申上候也

住所身分

年月日

町總代

氏名印

所轄警察署

御中

夕物留ヲ受ケサル  
片ハ令状ヲ發シ及  
ヒ勾留ヲ受テタル  
者ニ對シ保釈書符  
ヲ為スコトアリ其カ  
留入罰金ノ刑ニ該  
ルハキ者ト思料シ  
タル片ハ釈放ノ旨  
渡ラ為ス  
(治罪法第二  
百二十六条)

別紙人相書ハ前ニ載セタル  
如ク現場差異ハアレド大体  
官ノ達面ニ倣フ可シ

輕罪裁判所ノ移スノ言渡書式

言渡書

此輕罪裁判所所轄審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ住所身分職業者姓名ノ  
被告タル何ノ事件ニ付豫審ヲ遂グルル処被告ノ犯罪ノ証憑左ノ如  
ク充分ナリトス

- 一 何々ノノノノ
- 一 何々ノノノノ

右ニ依被告ノ姓名ハ明治何年何月何日何地ニ於テ何々ノ事ヲ為  
シタルヲ証明スルヲ以テ刑法第何十條ニ云々トアルヲ適用スヘ  
キ輕罪ナリトス依テ右事件ヲ某輕罪裁判所ニ移スモノ也

新撰法律書

百三十五

新撰書式

被告人ニ送達スルキ書渡書  
ニハ此但書ヲ加フ

但シ此書渡ニ付豫審判書ノ管轄違越權又ハ其書件ヲ移ス可  
キ裁判所ノ管轄違越ナリト思料スルニ於テハ故障ヲ為ス  
ヲ得其期限ハ一日ナリトス

明治何年 月 日

何裁判所

豫審判書 氏名 印

書記 氏名 印

被告人勾留ヲ受ケタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ル可キ者ト思料

シタル片ハ言渡本文中共輕罪裁判所ニ移トアル下文ヲ(シ氏名ノ  
拘留ヲ釈放スルモノ也)ニ作ルナリ其他禁錮ノ刑ニ該ル可キ者ト  
思料スル片保釈ヲ許ス等ハ治罪法第二百二十六條第二項第三項  
ニ從フ

第七條

被告人

件重罪ナリト思料

シタル片ハ左ノ言

渡書ヲ以テ重罪數

判所ニ移スノ書渡

○覺者御届

一當村内ニ於テ本月幾日午後何時  
覺者有之候ニ付早速医師某ノ療業  
手當仕候處已ニ落命仕候間即チ當

新撰書式

新撰書式

ヲ為シ且保釈責  
ヲ為シタルモノハ  
其取消ノ言渡ヲ為  
ス

治罪法第ニ  
百二十七条

重罪裁判所へ移スノ言渡書式

言渡書

何種罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ任所身分職業氏名ノ  
被告タル何々事件豫審ヲ遂グル処被告人犯罪ノ証憑左ノ如ク充

人所持之品物取調此段御届申上候

年月日

町役場

氏名印

所轄警察署御中

分ナリトス

一何々、  
一何々、

右ニ依リ被告人氏名ハ明治何年何月何日何所ニ於テ々々事件ノ  
為シタルテ証明スルヲ以テ刑法第何十條ニ云々トアルノ適用  
可キ重罪ナリトス依テ保釈ノ許シ又ハ貴付ヲ為シタル件ノ保釈  
(貴付)ノ言渡ヲ取消シ右事件ノ何重罪裁判所ニ移シ且其保釈裁判  
所檢事長ノ指揮ヲルマテ氏名ヲ當裁判所監倉ニ留置スルモノト  
リ(被告人ニ送達スハ言渡  
書ニハ此ノ但書ヲ加フ)

(但書)言渡ニ對シテハ故降ノ為スニテ得其期限ハ一コナリト

新撰書式

百二十七

ス

明治何年何月何日

何裁判所

摩審判事	氏名	印
書記	氏名	印

○出奔御届

住所身分職業

氏名

何年何月

第一百八條 豫審  
 結ノ言渡ニハ事實  
 及ヒ法律ニ依リ共  
 理由ヲ付ス

管轄ニ非カリノ言  
 渡ヲ為スニハ其原  
 由ヲ若シ被告入リ  
 勾留ス可キトモ其  
 原由ヲ明示ス  
 免訴ノ言渡ヲ為ス  
 ニハ被告事件罪ト  
 ナラサル一公訴受  
 理ス可カラサル一  
 及ヒ其原由又犯罪

右之者去ル何日出奔住所々尋中  
 御座候間此段御届申上候也

年月日 住所身分 氏名 印

所轄警察署

(本文ノ通届置而シテ親屬等合精  
 タリ遂ケ到成行方不知片ハ六ヶ月毎  
 其由届出三十六ヶ月ヲ経テ尋テ得サル  
 片ハ永ノ尋ヲナス可シ又全戸出奔セシ

ノ証憑充分ナラザ  
ルハ其旨ヲ明示  
ス

違警罪裁判所輕罪

裁判所又ハ重罪裁

判所ニ移スノ言渡

ヲ為スニハ犯罪ノ

性質様様証憑ノ充

分ナルト及ヒ其罪

ヲ罰ス可キ法律ノ

片ハ親屬ヨリ届ケ親屬ナキモノハ家  
主又ハ其町村役場ヨリ其由ヲ届ケベシ

○出奔人六ヶ月目御届

住所身分職業

氏名

何年何ヶ月

右ノ者去ル何月何日御届仕置親屬  
共精々心當リ先々相尋候得共示令  
居所知シ不申候間此段猶御届申上

正條ヲ明示ス

(治罪法第ニ  
百二十八条)

第九條

前條ノ

言渡書ニハ治罪法

第百三十條ノ規則

ニ從ヒ被告人氏名

等ヲ明示ス

(治罪法第ニ  
百二十九条)

第十條

檢事民

事原告人及ヒ被告

候也

(年月日以下前二同シ)

○家出届一例

住所身分職業

氏名

何年何ヶ月

右ハ者兼テ癡狂ノ崩有之精々注意  
致居候処昨何日ノ夜行跡不分明ニ  
付親類其他心當ヲ搜索仕候得共相



人等前條ノ言渡ニ分不申全ク家出仕候義ト被存候則  
對シ故障ノ申立ヲ  
別紙人相書相添此段御届申上候也

為シタル片ハ第百

廿三條以下ノ未読

キニ從ヒ共取扱ナ

為ス

(治罪法第百廿四

十六條

第百十一條

豫審

終結ノ言渡ハ共都

住所身分

姓名印

年月日

所轄警察署宛

(情心當リノケ條アラバ書添フベシ)

(人相書等ハ家出時着セシ衣類及

年齢所持ノ品容兒妻シ認ム可シ)

度左ノ報告書ヲ以テシ又未決事件ハ十五日毎ニ又左ノ報告書ヲ裁  
判所長ニ出ス

(治罪法第百  
三十三條)

豫審終結ノ裁判所長ニ報告スル書式

(治罪法第百三十三條第一項)

豫審未非事件報告書		豫審未非事件報告書	
番	被告ノ住所	被告ノ住所	被告ノ住所
号	職業氏名	理由	終結ノ言渡
一	使所身分職業	人ノ所有物ヲ	何種罪裁判ニ
二	氏名	竊盜又	移入
三	住所身分職業	犯罪ノ證據充	免許
	氏名	分テラヌ	

右本日及終結候間此段致報告候也  
 明治何年何月何日某裁判所  
 何裁判所長 豫審判事 氏名 印  
 判事氏名殿

豫審未非事件報告書		豫審未非事件報告書	
番	被告ノ住所	被告ノ住所	被告ノ住所
号	職業氏名	理由	終結ノ言渡
一	使所身分職業	人ノ所有物ヲ	何種罪裁判ニ
二	氏名	竊盜又	移入
三	住所身分職業	犯罪ノ證據充	免許
	氏名	分テラヌ	

右及報告候也  
 明治何年何月何日何裁判所  
 何裁判所長 豫審判事 氏名 印  
 判事氏名殿

第十一章

豫審上訴

第一百十二條

左ノ

場合ニ於テハ檢事  
又ハ被告人ヨリ豫  
審終結ニ至ルマテ  
何時ニテモ故障ヲ  
為スルヲ得  
一管轄邊ヒノ申立  
ヲ棄却シタルト

○家出人立歸入籍御願

住所身分職業

氏名

何年何月

右ノ者儀心得違ニテ去ル何年何月  
何日無届ニテ何府縣下迄罷越其道  
中ニテ(病氣又ハ他種々ノ事故等ニ本  
日帰宅仕候処最早脱籍御届相成候  
段承リ今更後悔仕候誠ニ最初無届

越權ノ一廿キ令狀  
ヲ發シ又ハ之ヲ發  
セサルト

三法律ニ背キ保狀  
貴付ヲ為シ又ハ之  
ヲ為サルト

四越權ノ處分アル  
ト

民事原告人ハ私訴  
ニ付テ第四ノ場合

他出仕候段重々恐縮仕示來ハ急度  
相慎候間何卒復籍御許容被成下度  
此段奉願候也

年月日

本人

氏名印

右父兄

氏名印

總代

氏名印

戸長役場御中

(所轄警察へヒ復籍後右由届出ス可シ)

ニ於テ故障ヲ為ス  
テ得

(治罪法第百三十四條)

第百十三條 前條

ニ定メタル故障ヲ  
為シトスルハ共  
故障ノ趣意書ハ對  
手人ノ數ニ應ジ  
ル勝本ヲ添ヘ之ヲ  
書記局ニ差出サシ

○自滅人御届

住所身分職業

氏名  
何年何ヶ月

右ノ者兼テ痲症ノ性質ニテ時トノ  
ハ狂氣ノ様子見受候間精々心付居  
候処今何日午後何時何所於テ  
御届仕候間此段御届仕候也

年月日  
右某父兄氏名印

右柳總代

氏名印

所轄警察署宛

○變死人御届一例

住所身分職業

氏名

父子兄  
弟姉妹  
誰

何年何ヶ月

右之者平生壯健ニ候得共時トシテ

ム若シ在監人ナル  
ハハ監獄長ヲ經テ  
差出サレム

(治罪法第百三十三  
十五條第一項第  
三百十  
一條)

第百十四條 書記

ハ共勝本ヲ各對手  
人ニ送達シ三日ヲ  
過レハ其答辨書ヲ  
差出スト否トヲ問

ハス共書類ヲ令議  
 局ニ差出ス  
 (治罪法第百三十五條第二項)  
 故障ニ付テハ豫審  
 處分ノ執行ヲ停止  
 セス但シ保釈責付  
 ヲ為シタルニ付キ  
 檢車ヨリ故障アリ  
 タル件ハ共執行ヲ  
 停止ス

發狂様ノ車相見へ候ニ付家内一統  
 注意保護仕居候処昨夜中皆々熟眠  
 ノ際窃ニ自宅之内ニ於テ自殺  
 何々所ニ身投又ハ溺死仕候間不取敢此段  
 御届申上候也

住所身分  
 年月日  
 氏名印  
 右町総代  
 氏名印

(治罪法第百三十五條)  
 第百十五條 會議

局ニ於テハ檢車ニ  
 意見書ヲ差出サシ  
 ノ判事三名以上ニ  
 テ一切ノ書類ニ依  
 リ左ノ如ク其故障  
 ヲ判決シ被告入ニ  
 送達ス可ヤ勝本ニ  
 ハ豫審終結ノ言渡

所轄警察署宛

(戸主ヨリ届出ルハ當然若シ戸主ナキ時ハ親  
 屬ノ者ヨリ戸長ノ奥印ヲ請ケ地方長官宛ニ  
 テ所轄ノ警察署へ差出スベシ)

○溺死御届

住所身分職業  
 氏名  
 右ノ者兼テ發狂ノ様子ニ相見へ候  
 間心付居候処昨何日何所ニ於テ水

新築路

百七

アリタル後上告ス  
ルヲ得ヘキト及ヒ

其期限ノ三日ナル

トナリ記載ス

治罪法第百三  
十六条第百五  
十(八)

条

死致居候ニ付此段御届申上候也

右父兄又ハ親屬

年月日

氏名印  
氏名印

所轄警察署

故障ノ判決書式

言渡書

其裁判所合議向ハ被告ハ合カ住所身分職業氏名ヲ被告タル間ニ  
事件ニ付何裁判所豫審部事ノ審理中ニ於テ管轄邊ノ趣申立タル  
処其申立ヨ棄却セラレシト右ハ云々ニ付治罪法第何條ニ背キ  
タル不當ノ處分ナル旨故障ノ申立ヲ受テ其趣意書被告入氏名ノ  
答辯書及ヒ檢査ノ意見書其他訴訟書類ヲ送附スル処何々ノ書類  
ニ依レハ云々ナルヲ以テ豫審部事カ管轄邊ノ申立ヲ棄却シタル  
ハ治罪法第百四十條犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄  
ナリトスル明文ニ適當ニタルモノトス依テ故障ノ申立ハ之ヲ棄  
却スルモノナリ

明治何年月日

何裁判所會議局ニ於テ

判事	氏名印
判事	氏名印
書記	氏名印

被告人ニ送達スルハキ言渡書ニハ本文ノ末ニ左ノ但書ヲ加フ  
 但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヨク為スルコトヲ  
 得其期限ハ三日ナリトス

法律ニ背キ令状ヲ發シタルニ付キ故障ヲ為シタルハ會議局ニ於テ

判決スル書式ハ左ノ如シ

判決言渡書

某裁判所會議局ハ被告人住所身職業氏名ヲ檢事何某ヨリ起訴  
 セラレタル何々事件ニ付キ豫審判事氏名ヨリ何年月日時ニ發シ  
 タル拘引状ハ治罪法第百廿一條ニ的當セス不法ノ處  
 分ナル旨故障ノ申立ヲ受テ其趣意書檢事氏名ノ答辯書其他訴訟  
 書類及ヒ檢事ノ意見ヲ閱スルニ云々ノ書面ニ依リハ被告人氏名  
 ハ召喚状ヲ受テタル日時ニ出廷セサルニ在ラザレハ治罪法第百  
 二十條ニ依リ拘引状ヲ發スルハキニ非ス又被告人定リタル住所ア  
 リ及ヒ罪証ヲ煙滅シ又ハ逃亡スル等ノ恐れアラサル一何々ニ依

リ明瞭ナレハ治罪法第百二十一條ヲ適用シ勾引状ヲ發ス可ニ非  
ストス依テ豫審判事何某之發シタル勾引状ハ之ヲ取消ス者ナリ

明治何年 月 日

何裁判所會議局ニ於テ

判書 氏名 印

判書 氏名 印

判書 氏名 印

書記 氏名 印

法律ニ背キ令状ヲ發セサルルノ判決ハ之レニ準テ法律ニ背キ係狀  
責付ヲ為シ又ハ之ヲ為サルル片亦同シ

被告人ニ送達スルキ言渡書ニハ本文ノ末ニ左ノ但書ヲ加フ

但此言渡ニ對シテハ豫審判事何某之發シタル後上告ヲ為スル  
ヲ得其期限ハ三日ナリトス

裁權ノ處分アルニ付キ故障ヲ為シタル片會議局ニ於テ判決スル書  
式

判決言渡書

何裁判所會議局ハ民事原告人住所身分職業氏名ハ被告人氏名ハ  
何々事件ニ付キ損害ヲ受ケタルノ證據スル為メ何住所身分職業  
氏名其他何事々々ヲ證入トシテ指名シタル地豫審判事氏名ハ治



罪法第七十條ニ背キ其一名ヲモ呼出サス右ハ其職權ヲ越スル  
タル者ナルヲ以テ其處分ニ服セサル旨陳ノ申立ヲ受テ其意  
書被告人氏名ヲ答辨書其他訴訟書類及ヒ檢事ノ意見書ヲ閱スル  
ニ云々ノ理由ナルヲ以テ豫審判事ニ於テハ何某ノ指名タル証  
人五名ヲ限リ呼出ス可キ者也

明治何年 月 日

何裁判所會議局ニ於テ

判事	氏名	印
判事	氏名	印
判事	氏名	印

被告人ニ送達ス可キ言渡書ニハ本文言渡書ノ末ニ左ノ但書ヲ加フ  
トシ

書記 氏名 印

但此言渡ニ對シテハ豫審判事ノ言渡アリタル後上告ヲ為ス  
ヲ得其期限ハ三日ナリトス

第百十六條 左ノ

場合ニ於テハ檢事  
被告人又ハ民事原告  
人ヨリ豫審判事

嗣子替御願

一私儀何商業ノ者ニテ私跡相續人  
儀長男某何年ナル者在之候得

豫審判事

ニ至ルマテ豫審判事ヲ忌避スルコトヲ得

(若罪法第二百三十七條)

- 一 豫審判事又は其配偶者ト被告入被害者又は是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナル片
- ニ 豫審判事被告

共平常多病ニ付家業差悶ハ一家相續難出來ニ付今般親屬協議ノ上次男某何月何月十ル者ヲ以私嗣子ト相定申度何卒右ノ段御許容被成下度親屬連署奉願候也

年月日

住所身分

氏名印

長男

氏名印

人又ハ民事原告人

ノ後見人ナル片

三 豫審判事又は其配偶者ニ於テ民事原告人被告入又ハ是等ノ者ノ親屬

ヨリ賄賂ニ非スト

虽モ贈物ヲ收受シ

若クハ聽許シタル

片

○養子差遣度願書

住所身分

氏名

住所身分

親類 氏名印

戸長 氏名印

地方長官宛

○養子差遣度願書

住所身分

氏名

次三男 或ハ弟

何ノ誰 何年何月

百四十九

第百十七條 前條

ニ定メタルハニ違フニ  
申立ヲ為シ其趣意  
書ニ通ラ書記局ニ  
差出シタル片ハ之  
ヲ豫審判事ニ送致  
ス  
豫審判事ハ之ヲ受  
取リタルヨリ廿四  
時内ニ申立ヲ認可

右之者今般媒介熟諳ニテ何府何國  
何郡何村何番地身分氏名方ハ養子  
ニ差遣同人幾女誰ハ配偶為致度此  
般奉願候也

年月日

右 氏名印

地方長官宛

(右ハ華士族身分ノ者ナリ  
平民ニ於テハ別ニ願ニ及ハズ)

シ若クハ棄却スル  
旨ヲ左ノ如ク趣意  
書ヲ紙尾ニ記載シ  
一通ヲ書記局ニ載  
置シ他ノ一通ヲ本  
人ニ送達セシム  
(治罪法第ニ  
百三十八条)

○養子女御届

何府何國何郡何村何番地職業身分  
氏名幾男氏名年齢儀今般双方示  
ノ上私方ハ貫請養子女ニ致候間此  
般御届仕候也

住所身分

年月日

氏名印

戸長役場御中

懸書ノ紙尾ニ記載スル書式

懸書申立ノ懸書可成ハ素却候事

明治何年 月 日

某裁判所

豫審判事

氏名 印

被告ノヨリ為シタル忌避ノ申立ヲ素却シタル片ハ被告人ハ逃達ス可十分ニ忌避申立ノ懸書却候事トアル次ニ左ノ但書ヲ知ラ但此書渡ニ對シテハ其逃達ヲ受ケタルヨリ一日内ニ故障ヲ為スコトヲ得

第百十八條 忌避

ノ申立人其申立ヲ素却セラレタルニ付故障ノ懸書ヲ差出シタル片ハ會議局ニ於テ豫審判事ヨリ之ニ對スル辨明書ヲ差出サシメ左ノ判決ヲ與フ

○家督相續御願

(家督ノ有無 住所身分 氏名 氏名 長次三男 氏名 何年何月)

私儀何々ニ付隱居仕右誰ハ家督相續為致度此段奉願候也

年月日 家督讓入 氏名 印 同讓受人 氏名 印 戸長 氏名 印

(治罪法第二  
百三十九条)

部長死

忌避ノ故障ニ付會議局ニ於テ判決スル書式

判決書渡書

某裁判所會議局ハ檢事氏名カ被告人住所身分職業氏名ノ何ニ一  
件豫審中ニ於テ其豫審判事何某ニ對シ忌避ノ申立ヲ為シタル處  
該判事ヨリ之レヲ棄却セラレタルニ右忌避ヲ為ス所以ハ云々ニ  
付其棄却ハ不當ナル旨故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書及ヒ豫審判事  
氏名ノ辨明書ニ依リ之レヲ觀ルニ豫審判事氏名ノ妻某ハ被告人

氏名ノ婦ノ子ノ配偶者某ト平素入魂ノ交際アルヲ以テ明治何年  
何月日ニ在テ同人ヨリ何品ヲ貰ヒ受ケタルト何々ニ依リ明白ナ  
レバ治罪法第二百三十七條云々其第三項ニ何トアルニ照ラシ檢  
事ニ於テ豫審判事氏名ヲ忌避スルヲ得ヘキモノトス依テ檢事氏  
名カ為シタル忌避ノ申立ヲ認可シ豫審判事氏名ノ棄却ヲ取消ス  
モノ也

明治何年何月日某裁判所會議局ニ於テ

判事 氏名 附

判事 氏名 附

判事 氏名 附

書記 氏名印

本文ニ及對スル即チ治罪法第二百四十一條ノ場合ノ如ク故障ノ申  
立ヲ棄却スル片ハ其理由ヲ言渡書ニ記載シ而シテ結文ヲ豫審判事  
氏名カ為シタル棄却ノ指令ヲ認可シ檢事氏名ノ故障ヲ棄却スルモ  
ノ也ニ作ル

被告人ノ為シタル逃避ノ申立ヲ棄却シタル片被告人ヨリ故障ヲ為  
シ其故障ヲモ亦棄却シタル片被告人ニ送達スル言渡書ニハ左ノ但  
書ヲ加フ  
但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ為ス  
ヲ得其期限ハ三日ナリトス

第一百九條 豫審

中忌避ノ申立アル  
片又ハ其申立ヲ棄  
却シタルニ付故障  
アリタル片ニ於テ  
ハ豫審手續キテ停  
止スルト否トハ其  
事件ノ急不急ヲ料  
酌シテ處分スル  
アリ但豫審終結ノ

○家名ヲ廢シ他家へ養子願  
一私儀何々苗跡相續人ニ御座候處  
近來不幸打續生活難私一家ヲ廢シ  
洪ニ付親屬協議ノ上相續人無之  
何處何國何郡何某相續人無之ニ付  
養子ニ罷越度此奉願候也

年月日  
住所身分  
氏名印  
親屬 氏名印

言渡ヲ為サス

(治罪法第二  
百四十条)

第二百十條 第百

十五條第百十八條

ノ判決ヲ為シタル

ニ付豫審終結前ニ

於テ上告ノ申立テ

リト雖モ其判決ハ

速力ニ之ヲ執行ス

(治罪法第二  
百三  
十六條)

賞請人 氏名印

戸長 氏名印

何郡長宛

(明治十年太政官第六十号御布令  
男女子ノ戸主其家名ヲ廢シ他ノ縁  
付云々不苦旨アリタリ)

○亡跡家格相續願

住所身分

四十  
一条)

第二百十一條 豫

審判事自ラ治罪法

第二百卅七條ニ定

メタル原由アルヲ

認メ又ハ回避ス可

キ者ト思料シタル

片ハ書面ニテ其旨

ヲ會議局ニ申立會

議局ニ於テハ左ノ

家録ノ有無云々

氏名

亡跡 長男或ハ二三男  
相續人等ヲ記ス

氏名印

私近親何ノ誰何月何日病死仕候ニ  
付右誰江家督相續為致度此段奉願  
候也

(但相續人幼年ナレバ何ノ誰ノ後  
見為致度段本文ニ書入ル又婦

判決ヲ為ス但治罪  
法第二百四十五條  
ニ定メタル檢事ノ  
回避モ亦同シ

(治罪法第二  
百四十二條)

第三百廿二條 會議  
局ニ於テ忌避又ハ  
回避ノ申立ヲ認可  
シタルキハ裁判所  
長ヨリ更ニ他ノ判

女七跡相續願ハ本文ニ相續ノ男子  
御座候ニ付追而養子仕候迄右誰ハ  
云々書入レベシ

(住所身分親屬二人被讓入連署  
年月日其他前ニ同シ)

○亡跡養子或ハ相續人御届

住所身分

氏名

亡跡

事ヲシテ豫審ヲ為

サシム其判事ハ檢  
事其他訴訟關係人  
ヨリ請求ニ因リ又

ハ職權ヲ以テ前豫  
審判事ノ為シタル  
處分ト最モ更ニ取  
調ヲ為スアアリ

(治罪法第二  
百四十三條)

第三百廿三條 書記

住所身分

氏名 幾男

氏名

何年何月

右何ノ誰儀何月何日病死仕候処相  
續ノ男子無御座候ニ付右誰儀ハ何  
々ノ血統ニ付養子或ハ相續人ニ為  
致度此段御届申上候也  
但輩養子或ハ血統ノ者事故有之



回避ヲ為スニハ第百廿條ノ手續ニ從テ訴訟關係人ヨリ書記ヲ忌避スルノ申立書ハ書記局ヲ經テ會議局ニ呈出サシム

(治罪法第二百四十四條) 會議局ニ於テ前條ノ申

養子ニ難致向ハ以上書式見合ス

年月日 住所身分 氏名印  
 近親 氏名印  
 戸長 氏名印

何部長宛

○絕家相續御願

住所身分 七 氏名

立ヲ認可シタル片ハ裁判所長他ノ書記ヲシテ其職務ヲ行ハシムルヲ治罪法第二百四十三條ノ手續ニ準ス

豫審ニ付檢事其他訴訟關係人ヨリ會議局ノ言渡ニ對シ上告ヲ為シタル片

右ノ者去ル何年何月病死仕候処嗣子無之書ハ其際親屬協議ノ上致離別一旦絶家ニ相成居候然ニ私何々ノ間柄ニ付親屬協議ノ上今般私幾男某何歳ニ相成候者ヲ以テ何町何番地ニテ右亡某絶家再興為致度此般奉願候也

住所身分

百廿六

八第百〇三條以

下ノ手續ニ準シ其

取扱ヲ為ス

(治罪法第百廿

六條同第百廿

一亦同第百

百五十七條)

第百廿五條 檢査

民事原告人及被

告人治罪法第百

四十六條ノ區分ニ

從ヒ豫審終結ノ言

年月日

氏名印

親屬 氏名印

戸長 氏名印

何郡長宛

(但養子ヲ以テ絶家相續ハ一旦実  
家ノ後籍セシメ更ニ相續人ニ可  
實受実子ノ内ニ三男或ハ実弟等  
ヲ以テ絶家相續ノ義ハ不及出願ニ

言渡ニ對シ一日内

ニ其故障ノ申立書

ヲ書記局ニ送付シ

タルキハ書記速ニ

其旨ヲ對手人ニ通

知スルヲ左ノ如シ

(治罪法第百廿

四十八條)

年月日

氏名印

戸長役場御中

〇入夫ノ家督讓渡御届

氏名  
何年何月

右ノ者何年何月日願濟ニテ私長女  
誰婚夫ニ貰受有之候処今般家督相  
續為致度此段御届申上也

住所身分

書記ヨリ對手人へ通知スル書式

通知書

當裁判所ニ於テ住所身分職業氏名カ被告タル云々事件ニ付豫審  
終結ノ旨渡ラ為シタル処之ニ對シ故障ヲ為スハキ為シ豫審氏名  
又ハ民事原告人其他訴訟關係人ヨリ本日午前何時其申立書ヲ差  
出シタルニ付キ此旨被告人何某其他ニ通知スルモノ也

明治何年 月 日 時

何裁判所

書記 氏名 印

檢事ニ通知スル片ハ本文此音ノ下ツ及通知候也ニ作り書記ノ次ニ

(何裁判所檢事氏名殿)下記ス

(沿罪法第三百卅九條第三百六十八條ノ控訴アリタルニ付通知スル  
書式ハ本文ニ準シ而シテ豫審終結ノ旨渡ラ裁判官渡ニ作り故障ヲ  
控訴ニ作ルナリ)

第百廿六條 故障

申立人ヨリ更ニ三  
日內ニ其趣意書ヲ  
差出シタル片ハ第  
百廿三條ノ手續キ

○婦女家督相續御願

住所身分

氏名

長女三女  
或ハ姉妹等



件ニ付豫審判事氏名ニ於テ言渡セシ豫審終結ノ言渡ニ對シ爲シ  
 タル故障ノ申立ヲ受テ其趣意書及ビ被告人民名ノ答辯書該檢事  
 ノ意見書其他訴訟書類ニ依リ審察スル所右言渡ニ於テハ云々ノ  
 証憑ニ依リ被告人ハ何所ニ於テ何マノ事ヲ爲シタルモノト認メ  
 刑法第何十條ニ何々トアルニ依リ處断スヘキモノトシテ其裁判  
 所ニ移スト云フニ在リ然ルニ被告人ノ所爲ハ豫審判事ノ明示ス  
 ル証憑ニ依リ其言渡ノ如ク相違ナシト雖モ該所爲ハ刑法第何條  
 ニ何々トアルヲ適用ス可キ重罪ニシテ豫審判事カ指示スル法律章  
 ハ全ク不適當ナルヲ以テ治罪法第百五十二條ニ依リ右ノ言渡  
 ヲ取消シ更ニ此事件ヲ其重罪裁判所ニ移シ且被告人氏名ノ保釈

(又ハ此言渡ヲ取消シ其趣意書檢事長ノ指揮アルマテ被告  
 人ヲ當裁判所ノ監倉ニ留置スルモノ也)

明治何年月日

何裁判所會議局ニ於テ

判事 氏名 印  
 判事 氏名 印  
 判事 氏名 印  
 書記 氏名 印

被告人ニ送達スル言渡書ニハ本文ニ但書ヲ加フル丁左ノ如シ  
 但此言渡ニ對シテハ上告ヲ爲スルコトヲ得其期限ハ三日ナリトス

刑罰書ノ格式

百六

第百廿八條 豫審

終結ノ言渡ハ被告  
人ヲ勾留シ又ハ保  
釈責付ヲ取消スノ  
言渡ヲ除クノ外故  
障ノ期限内又故障  
アリタル片ハ其判  
決マテ執行ヲ停止  
ス  
(治罪法第二  
百五十五條)

○家督再相續御願

住所身分

氏名 隱居  
亡跡

右亡某父母 祖父母

養父母伯 叔父母

氏名

何年何月

一私儀云々ニヨリ退身仕何々儀何  
々ニヨリ死去仕候処子女無之  
私儀未ダ健康ニ候間家督再相續仕

見シタル片ハ檢事

ノ請求ニ因リ若ク

ハ職權ヲ以テ判事

ヲシテ豫審ヲ為サ

シム其手続キ及ヒ

報告ハ第百廿九條

ニ同シ

會議局ニ於テハ前

項ノ報告書及ヒ檢  
事ノ意見書其他訴

二三ノ氏名  
男弟 何年何月

一私長男某儀兼テ多病廢疾ニ付迎  
モ相續難出來依而右何某ヲ二女某

ノ婿夫仕度示談相整候間此段奉願  
候也

住所身分

年月日

父母 氏名 印

訟書類ニ依リ故障  
ト共ニ左ノ如シ之  
ヲ判決ス

(治罪法第ニ  
百五十三條)

長男 某 印  
婿夫 氏 印  
戸長 氏 印

何郡長宛

故障ト共ニ判決スル書式

判決言渡書

何裁判所會議局ハ檢事氏名カ住所身分職業氏名ノ被告タル云々  
事件ニ付キ豫審判事氏名ニ於テ為シタル豫審終結ノ言渡ニ對シ

第百廿九條 會議 度此段奉願候也

局ニ於テ必要ナル  
片ハ判事一名ヲシ  
テ更ニ豫審ヲ為サ  
シ又ハ或ル條件  
ニ付更ニ取調ヲ為  
サシム共判事ハ通  
常豫審ノ手續ニ從  
ヒ調濟ソ上左ノ報  
告書ヲ差出ス

住所身分

氏名 印

親屬總代

氏名 印

戸長

氏名 印

何郡長宛

(隠居ナレバ本人モ連印スベシ)

(法律第三  
百五十三條)

豫審報告書ノ式

報告書

住所身分

被告人 氏名

右之者何々(犯罪ノ種)一件仰求ニ依リ豫審ヲ遂グルル処別紙調査ノ

通ニ付此度及報告候也

明治何年 月 日

何處判官

判事 氏名  
書記 氏名

豫審判官會議局

判事御中

治罪法第三百五十七條報告書式ハ之ニ準スト最モ本條ハ指示シタル條件ナルノミニ注意シ且判事氏名ヲ豫審判事氏名ニ宛テ某裁判所判事氏名ニ作ルナリ

第三百三十條 會議

○家督再相續人稱呼

嗣子於家督ノ取一當主隱居致シ賢子又ハ養子家督



調中管轄連越權又相續致シ候上其相續人多病或ハ不  
ハ公訴受理ス可ラ  
サレテハ見シタ  
ルハ職權ヲ以テ  
豫審判事ノ旨渡ヲ  
取消スアリ  
屆不苦事

但再相續人ト可解事

○長男ヲ除ニ女へ入夫御願

住所身分

氏名

第百三十一條 故  
障ノ取調中共犯又  
ハ附帶ノ犯罪ヲ  
（百五十四条）

故障ノ申立ヲ受ケ共趣意書及ヒ答辨書其他訴訟書類ニ依リ之ヲ  
審案スルニ右旨渡ニ於テハ何々ノ証憑ニ依リ被告人氏名ハ明治  
何年月日其所ニ於テ云々ノ事ヲ為シタルモノトシ刑法第何條ニ  
何々トアルニ依リ處断スヘキモノト認メ其裁判所へ移ストニムフ  
ニ在リ然ルニ被告氏名カ云々ノ事ヲ為シタルハ豫審判事力其証  
據ヲ明示セシ如ク相違ナシト雖モ申所為タルヤ刑法第百何條ニ  
云々トアルヲ適用スヘキ重罪ニシテ且ツ氏名ノミ記シタルモノ  
ニアラズシテ何某ガ教唆ニ出タル何々ノ書類ニ依リ発見シタ  
ルヲ以テ檢事ノ請求ニ依リ（又ハ職權ヲ以テ）豫審ヲ為シ即チ教唆  
者氏名ヲモ取調タル其報告書其他訴訟書類ニ依テ更ニ審案スル

被告氏名カ何々ノ犯罪ト何某ノ教唆ニ因リタルト云々ノ証憑  
 ニ依リ明白スルヲ以テ之ヲ刑法第何條ニ何々某何條ニ何々トア  
 ルヲ適用スベキモノナリトス故ニ豫審判事氏名カ指示シタル法  
 章ハシ適當ヲ得サルヲ以テ治罪法第百五十二條ニ照シ豫審判  
 事氏名カ為シタル終結ノ言渡ヲ取消シ更ニ此事件ヲ其重罪裁判  
 所ニ移シ且其控訴裁判所檢察長ノ指揮アルマテ被告氏名教唆者  
 氏名ヲ當裁判所ノ監倉ニ留置スルモノ也

明治何年月日

何裁判所會義局ニ於テ

判事 氏名 印

被告人ニ送達スベキ言渡書ニハ左ノ但書ヲ加フ  
 但此言渡ニ對シテハ上告ヲ為スコトヲ得共期限ハ三日ナリトス

第三百三十二條 証

訟關係人又ハ其代  
 人非常ノ喪失厄難  
 ニ因リ上訴期限ヲ

并無書入文各

○家出入ノ跡相續御願

住所身分

家出入ノ氏名

判事 氏名 印  
 判事 氏名 印  
 書記 氏名 印

一、諸君、御覽、

經過レタル旨証明  
スル為ニ其證據ヲ

申立書ニ添ハ書記

局ニ差シ出シタル

中ハ書記之ヲ對テ

人ニ送達ス

(治罪法第ニ百五

十九條第ニ百十

條ニ)

前項ノ送達ヨリ三

日ヲ過シハ對テ入

長男 氏名  
何年何月

右某儀去何月日家出任其際御届申

上置候処今ニ踪跡不相分候ニ付今

般長男ニ家督相續為致度此段奉願

候也

住所身分

年月日

親屬 氏名印  
戸長 氏名印

何府郡區長宛

○家督相續人改名御願

一私養父氏名儀死去仕候ニ付去ル

何年何月日願濟跡相續仕居候処私

名前ニテハ遠國得意先商用向不都

合有之候間實父ノ名前即々何々ト

改名仕度此段奉願候也

ヨリ各辨書ヲ差出

スト否トヲ問ハス

其事件故障ニ係ル

井ハ書記ヨリ其書

類ヲ其裁判所會議

局ニ差シ出シ上告

ニ係ル井ハ大醫院

ニ送致スル為ニ之

ヲ檢軍ニ差出ス

(治罪法第ニ百五

十七條第ニ百十

新撰書式文各

三第(四)  
 百二十第  
 會議局ニ於テハ檢  
 事ノ意見ヲ書面ニ  
 テ聽キ左ノ如ク先  
 ツ其上訴ヲ受理ス  
 可キヤ否ヲ判決ス  
 此等ノ手續キハ治  
 罪法第百三十三條  
 第二項第三項第  
 四項ニ從フ

住所身分  
 年月日  
 氏名印

前書之通額出候間依之與印仕候  
 也

右 戸長 氏名印

何縣長官宛

(右地方長官宛ニテ 郡區役所  
 へ差出スヘシ)

豫審上訴ニ付受理ス可キヤ否ヲ判決スル書式

判決書

某裁判所會議局ハ住所身分職業氏名カ其被告タル何々事件ニ付  
 明治何年何月日豫審判事何某ニ於テ何裁判所ニ移ス可キ旨ヲ言  
 渡サレタルモ其言渡ハ何々ニ付不服ナル旨ノ故障ヲ申立依テ其  
 書類及ヒ氏名カ其故障ノ期限ヲ經過シタルハ云々ノ事由ナル旨  
 ヲ証明スル爲メ差出シタル何々ノ書面且檢事氏名ノ答辯書ヲ熟  
 閱スルニ被告人民名ハ治罪法第百四十七條ニ掲ゲタル故障ノ  
 期限ヲ經過シタルモ云々ノ天災又ハ厄難ニ原因シ止ムヲ得サル  
 一何々ノ書面ニ依リ明白ナルヲ以テ治罪法第百三十二條ニ訴訟

新撰書式(各)

關係人又ハ其代人非常ノ差支厄難ニ依リ上訴期限ヲ經過シタル  
 場合ニ於テ其旨ヲ証明シタルハ期限ヲ經過シタルニ依リ失ヒ  
 タル權理ヲ回復スルコト得ルトアルニ照シ右故障ノ申立ハ之ヲ  
 受理スル者也

明治何年月

何裁判所會議局ニ於テ

判事	氏名	印
判事	氏名	印
判事	氏名	印
書記	氏名	印

受理ス可ラサル判  
 決書モ亦之ニ準ズ  
 但し本文中其受理  
 ス可カラサルノ理  
 由ヲ付ス  
 公判上訴ノ判決書  
 モ亦同シ  
 第百三十三條 豫  
 審ニ於テ被告人免  
 訴ノ言渡ヲ受ケ其

○貫屬替御届

何郡何村何番地  
 士族 氏名

右ハ此度何府縣へ出仕○何住所某  
 業云々仕候ニ付何府縣下何國何郡  
 何村何番地へ引越居幾日歸朝仕候  
 依之貫屬替被成下度此段奉願候也  
 (但從來何府縣へ自身寄留ノ処更

言渡確定シタル後  
新ナル證據アルヲ  
以テ檢事ヨリ之ヲ  
會議局ニ差出シタ  
ル時ハ會議局ニ於  
テ左ノ如ク其起訴  
ヲ許スベキヤ否ヲ  
判決ス

(治罪法第ニ  
百六十一條)

二貫屬替スル片ハ何年何月ヨリ  
何縣下何國何區何村何番邸族籍  
何ノ誰方ハ自身寄留ノ処此度云  
々ノ儀有之云々ト書載ス可キ

年月日

氏名印

戸長 氏名印

地方長官宛

(右郡區役所へ差出ス事)

檢事ノ起訴ヲ許ス可キヤ否ヲ判決スル書式

判決書

某裁判所會議局ハ檢事氏名カ住所身分職業氏名ノ被告クル何々  
事件ニ付明治何年何月何日豫審判事何某ニ於テ犯罪ノ證據充分  
ナラサルヲ以テ免訴スル旨ヲ言渡シタルに今日ニ至リ新ナル證  
憑ヲ発見シタルヲ以テ之ヲ當會議局ニ差出し起訴ノ判決ヲ求ム  
ル旨ノ申立ヲ受ク依テ異キ豫審書類ヲ悉閱シ更ニ審判スル  
処該證據ハ何々ニ付新ナル證據ト為スニ充分ナルヲ以テ檢事ノ  
起訴ヲ差許ス者也

明治何年何月日

何裁判所會議局ニ於テ

判事	氏名	印
判事	氏名	印
判事	氏名	印
書記	氏名	印

又檢事ノ起訴ヲ訴サ、ルキハ本文中(該証憑ハ何ヤニ付)ノ下文ヲ  
 新ナル証憑ト為スニ足ラサルヲ以テ檢事ノ起訴ヲ差許サ、ル者  
 也(三作ルナリ)

第十二章

○合家御願

輕罪公判

第三百三十四條 訴

訟事件ハ書記寫ノ  
 簿冊ニ登記シタル  
 順序ニ從ヒ之ヲ公  
 判ニ付ス  
 裁判所長ハ未決句  
 留ノ日數ヲ減縮ス  
 ル為メ職權ヲ以テ  
 其順序ヲ變更スル

住所身分

氏名

住所身分

氏名  
何年何月

一私本家何區何村何番地何某本年  
 何月何日死去仕候処子女無之身代  
 毛不如意ニ付私方ハ合家仕度本人  
 遺言有之候間此段御聞届被成下度

新撰書式文格

一ヲ得  
又重要ナル事由ノ  
為ノ檢察官其他所  
訟關係人ノ請求ア  
リタルモ亦順序  
ヲ變更スルコトアリ  
書記ハ左ノ公判件  
數録ヲ備置順序  
ヲ遵守スルニ登  
記ス(治罪法第三  
百六十二條)

親屬連印之上奉願候也

年月日

住所身分

氏名印

親屬總代

氏名印

戸長

氏名印

何府  
縣長官宛

(右地方長官宛ニテ郡區  
役所ハ差出スヤシ)

公判件數録ノ式

明治何年何月日

表紙  
公判件數録

何々裁判所

此ノ公判件數録ニハ受附ノ年月日掛官ノ氏名及ヒ被告ノ住所氏  
名等左ノ記載例ニ準ズ

新撰書式文格

百十一

百八十五



受付	明治何年何月何日	被告入	住所身分	姓名	掛官	番号	第何号	在檻	責任	保釈	言渡	証憑	物件
				明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日

記載例

第百三十五條

罪輕罪重違背罪ノ訊問辨論及ヒ裁判言渡ハ之ヲ公判ス否ラサル片ハ其言渡ノ効ナシ  
訊問辨論及ヒ裁判言渡ヲ傍聴セントスルモノハ自由ニ訟廷ニ立入り傍聴

○分家御願

住所身分 氏名  
何男 氏名  
或弟 何年何月 氏名  
右者此度分家仕何所ニ於テ何營業  
為致候ニ付御許可被成下度此段奉願候也  
年月日 右父兄 氏名印  
戸長 氏名印

第百三十五條

百三十三

第百三十五條

百三十三

席ニ就カシム若シ  
 被告事件ハ公署ニ告  
 シ又ハ根拠ニ涉リ  
 風俗ヲ害スルノ恐  
 アル中ハ裁判所ニ  
 於テ檢察官ノ請求  
 ニ因リ又ハ職權ヲ  
 以テ其訊問及辯  
 論ノ傍聴ヲ禁スル  
 ニハ左ノ言渡ヲ為

何郡長宛  
 士族平民籍へ編入御願  
 住所士族  
 長二男 氏名  
 女弟妹 氏名  
 右ノ者何々職工ニシテ  
 商業熟練仕候ニ付今般  
 何地ニ於テ開業仕度依  
 上何地何町へ平民籍編入仕度此段

シ談延ノ入口ニハ  
 禁傍聴ノ牌ヲ掲ケ  
 シム  
 (治罪法第百六  
 十三条同第百  
 六十四  
 条)

奉願上候也  
 年月日  
 右某父兄氏名印  
 分籍人 氏名印  
 戸長 氏名印  
 何郡長官宛

傍聴ヲ禁ズル言渡書

住所身分職業氏名ヲ被告タル何々事件ハ公署又ハ風俗ヲ害スルノ  
 恐アルニ付檢事ノ意見ヲ聽キ(又ハ職權ヲ以テ)治罪法第百六十四

條ニ依リ訊問及ヒ辯論ノ傍聴ヲ禁スルモノ也  
明治何年何月 日

某裁判所

判事 氏名印  
書記 氏名印

傍聴ヲ禁スル牌式

禁 傍 聴

第三百三十六條

判所長ハ公判作數

録ニ登記シタル記

訟ノ順序ニ依リ公

判ニ付ス可キ為メ

之ヲ各判事ニ配當

シ書記ヲシテ左ノ

如ク其作數ヲ公判

理數表ニ照ラシテ

順次公判ニ付ス

○家出人ノ養子離縁御願

住所 氏名

兄弟 氏名

何年何月

右誰儀何年月何郡何村何番地何某  
方へ結婚為致有之候処右夫養父某何  
年月日家出任今ニ行衛相分不申最  
早何ヶ月相立候間今般離別仕度段  
奉願上候也

新撰書式

百七十四

百八十五

新撰書式之類

但シ判事差支アル  
中ハ判事補ラレテ  
其職務ヲ行ハシム  
治罪法第五十七條  
第一項同第百六  
十二條第一  
項

年月日

右誰父兄弟  
氏名印  
親類  
氏名印  
戸長  
氏名印  
何區長宛

明治何年何月

班數表  
之式

公判班數表

某裁判所

何月何日  
○判事 氏  
○○判事 氏  
○○判事 氏

此ノ班數ハ配付件數ノ平等ヲ思フスモノトス以下之ニ依フ

新撰書式之類

百七十五

百八十五

百八十五